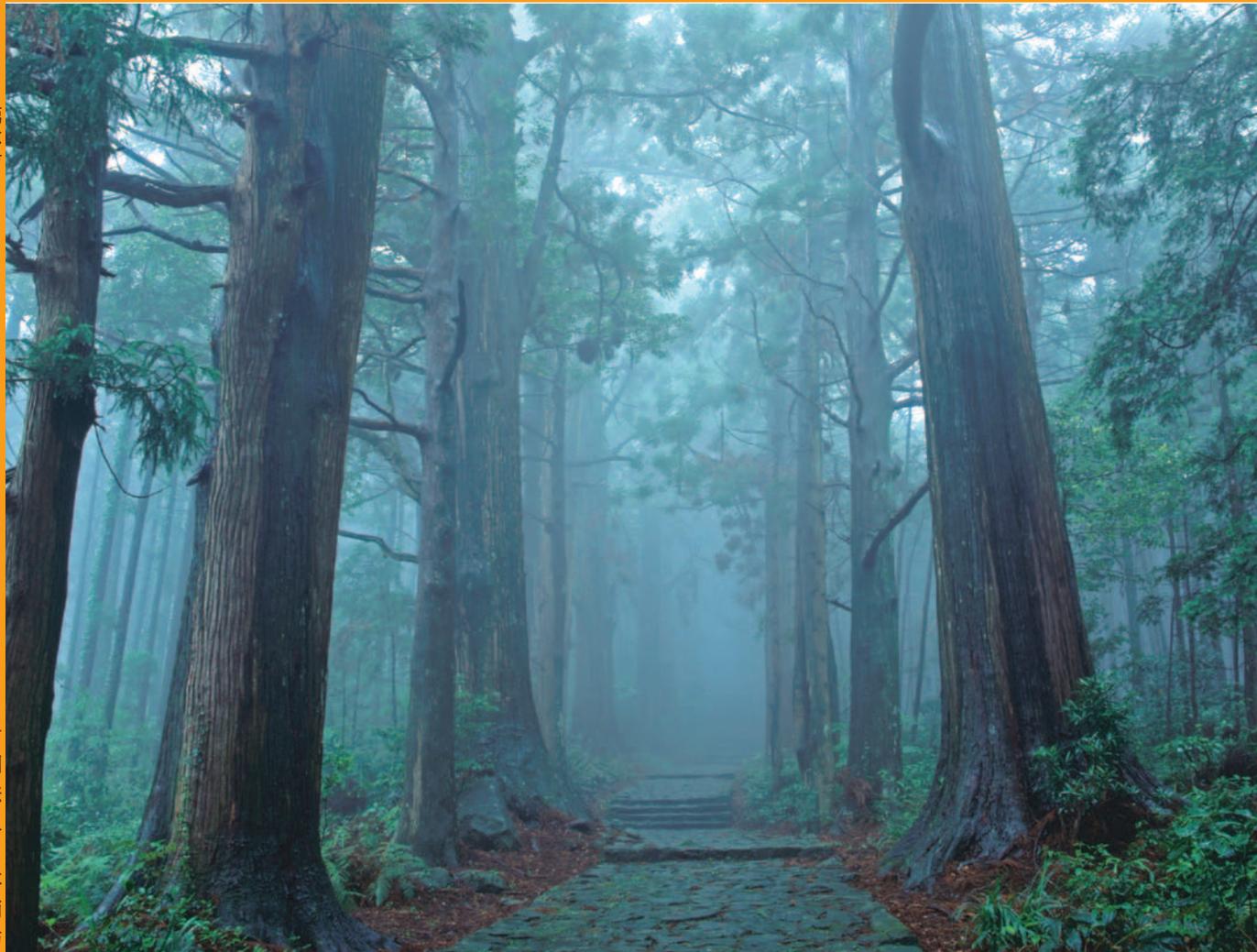


日本消防



□ 絵 第11代日本消防協会会長に秋本敏文氏が就任 財団法人 日本消防協会
平成24年春の叙勲伝達式（消防関係） H24.6.1（金） 於 ニッショーホール
平成24年春の褒章伝達式（消防関係） H24.6.6（水） 於 スクワール麹町

会長就任ごあいさつ	（財）日本消防協会 会長 秋本 敏文	1
巻頭言 「大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会中間報告書」について	財団法人 佐賀県消防協会 会長 野中 勉	2
財団法人日本消防協会役員会議の開催について	財団法人 日本消防協会	4
「消防団の店」現地ルポ（1）愛知県瀬戸市—消防団を知ってもらう—	在日米海軍司令部地域統合消防隊 予防課長 長谷川 祐子	8
「消防団の店」現地ルポ（2）岐阜県関市—関市消防団サポートプロジェクトを訪ねて—	赤羽消防団副団長 小澤 浩子	11
東西南北（長野県）「地域に根ざした消防団を！」	須坂市消防団 団長 依田 浩明	14
東西南北（福岡県）「安全で安心なまちづくりへの取り組み」	北九州市戸畑消防団 団長 高木 壽則	16
東西南北（和歌山県）「熊野の再生を願い活動する消防団」	那智勝浦町消防団 団長 前地 俊秀	18
シンフォニー（秋田県）「あんべいい消防団を目指して」	秋田市女性消防団 団員 木村 綾子	20
少年消防クラブ（東京都）「決意も新たに！矢口消防少年団入卒団式」	矢口消防署 防火管理係 関口 一郎	22
消防職団員のための各種共済事業等について福祉共済事業・消防互助年金事業・火災共済事業	（財）日本消防協会・（生協）全日本消防人共済会	23
平成24年春の叙勲伝達式・褒章伝達式	総務省消防庁	27
住民自らによる災害への備え	総務省 消防庁 防災課	43
うちの名物団員		44
消防団の広場（静岡県）「第33回静岡県消防操法大会に出場して」	富士市消防団 第5分団 班長 瀧浪 宏俊	46

7月の日本消防協会関係行事

編集後記

表紙写真説明

「大門坂」

世界遺産に登録されている「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部である「熊野古道」の中でも、当時の面影を最も残している「大門坂」です。

苔むした約640mの石畳と樹齢800年を越す老杉等に囲まれ、聖地那智山へと続いており、往古の熊野詣でが偲べれます。
(和歌山県)

第11代日本消防協会会長に秋本敏文氏が就任

財団法人 日本消防協会



代議員会でのあいさつ（5月22日）

平成24年春の叙勲伝達式（消防関係）

平成24年6月1日（金） 於 ニッショーホール



平成24年春の褒章伝達式（消防関係）

平成24年6月6日（水） 於 スクワール麹町



会長就任ごあいさつ

(財) 日本消防協会
会長 秋本 敏文



このたび、日本消防協会代議員会のご推薦により、第11代会長に就任いたしました。これまで理事長でしたが、会長として一段と重い責任を痛感いたしております。よろしくお願いたします。

当面する課題は山積です。東日本大震災を経て、今また各地で大規模な地震・津波の発生切迫性が指摘されております。勿論、火災、水害なども考えておかなければなりません。その中で、これからの我が国の消防防災体制をどうしていくかが基本的な大きな課題です。そのため、2月23日の役員会で「東日本大震災後の我が国消防のあり方」について、日本消防協会としての意見を決定し、関係方面に申し上げました。その骨子は、緊急消防援助隊などの常備消防も勿論重要ですが、今回の経験、これからの災害を考えますと消防団を中心とする地域総合防災力の充実が必要というものです。その中で消防団の存在はもっともっと重要な大きなものになります。

一方、「消防団の闘い」（日本消防協会が編集した東日本大震災時の消防団の活動記録）に明らかなように、安全確保を含む消防団の基本的な装備は不十分であり、その充実を急を要する大きな課題です。二度とあのような多数の殉職者が生じないようにするためにも、緊急に整備を進めなければなりません。そこで、5月22日の役員会で「平成25年度の消防団関係予算」について、国への要望を決議し、即日、川端総務大臣等への要望を行いました。

こうして、消防団の活動環境を改善することは、団員の確保にもつながると思います。

そのような中で、平成25年は、消防団120年・自治体消防制度65周年の記念イベントを行います。昨年からは消防団長さん方を含めてご相談していますが、いよいよ本番です。消防団が日本の消防を担ってきたという歴史を振り返りながら、これからの消防団など消防防災体制の充実の必要性を一般国民の皆さんにも訴える機会にしたいと思います。

その他、福祉共済事業等の継続認可、新公益法人制度への対応など多くの課題があります。

これらに私は全力を尽くします。そこで大事なことは、全国の消防団の皆さんなど消防関係の方々のご理解・ご支援だと思っております。できる限り連携を保つように気を付け、全国の消防団の皆さんなどとご一緒に前進することができますよう努力します。よろしくお願いたします。

全国の消防関係の皆様が安全に、お元気に活躍されますよう、そしてまた、全国各地が平穏無事でありますようお祈りして、就任のごあいさつといたします。

「大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会中間報告書」について

財団法人 佐賀県消防協会 会長 野中 勉



東日本大震災が発生して1年間が経過しました。

この未曾有の大災害を契機に、佐賀県でも地域防災計画の修正、災害時用物資の保有・流通備蓄の推進等について、県市町応援協定の実施細目の策定等着々と対策が講じられております。一方、平成24年3月9日に消防庁から「東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会」中間報告書の公表がありました。その中で地震、津波を想定した災害時の消防団活動の明確化等が述べられています。

地震、津波災害の文言を一般の災害に読み替えれば、全国津々浦々まで、あらゆる災害に適応できる提言であり、最終報告が待たれます。

この中間報告を踏まえて、各消防団はこの内容を理解し、そして、団員さん方に徹底していただくことが必要となります。地形、環境等により発生する災害も市町で微妙に異なり重点的に取り組む災害対応にも差があると思います。過去の災害事例に学び、この中間報告を土台にして、わが町の今後の消防団活動について系統だった災害対策、指揮要領等を考える時期が来たのだと思われまます。

団員の個人装備に例示されたライフジャケット等の着用は大津波などの大災害だけでなく、河川の氾濫時に実施する水防工法や、台風の接近に伴う高潮警戒で海岸、河口付近を巡回する時にも必要です。

それに、情報伝達の手段はあらゆる災害時にも必要ですが十分とはいえません。

火災ぼうぎょ対策でも、火煙対策などは常備消防の足元にも及びません。

そのような中で黙々と消防団はやってきましたが、これからの消防団活動を考えるとき個人装備の充実は避けて通れない問題です。

次に、提言にありました教育訓練の問題です。現在、団員の教育は基本的なものは県消防学校で実施されています。

それぞれの階級に応じた必要最少限度の教育訓練が実施されています。しかし、入校者は残念ながら多いとはいえません。このことは県に対しても申し訳なく、私も積極的に各消防団幹部の方々には働きかけを致しております。しかし、団員もサラリーマン化や、農業、漁業の多角経営等により、年間を通じて多忙になり、消防学校での宿泊研修入校は困難になっております。佐賀県では土日の入校研修も実施して戴いておりますが、なかなか思うようには集まりません。

提言された災害時の退避ルール等について、今後、どのように徹底していくのが課題です。

やはり地元分団や部単位での地道で息の長い研修で対応せざるを得ないと思っております。その研修を充実するためには助言できる自前の指導者を養成する必要があります。県消防学校で効率的な日程でこの提言に沿った指導者養成課程を設けていただければ幸いです。

また、日本消防協会で開講される各研修もこの中間報告に沿った内容の研修も実施されると思いますが、消防団自前の指導者を養成するためにも幹部候補研修等で取り上げていただき、より一層の充実強化をお願いします。

今回の中間報告とは直接、関係していませんが、本年度、遅ればせながら消防団員等公務災害補償等共済基金の消防団危険予知訓練（S-KYT）を実施したいと考えています。教育内容を記載した資料によれば基本的な内容は火災出動や準備段階での危険予知等が中心になっているようです。この基本的な教育のほかに、災害の種類別やポンプ操法等に特化した教育を考えていただければ非常に有難いと考えます。

災害の種類、例えば台風災害、大雨洪水災害（特に局地的な大雨災害）土砂災害等、出動時の団員の危険予知の向上には、専門家の助言が欠かせないものです。

ポンプ操法訓練中の怪我等の増加も頭の痛い問題です。準備体操等も十分実施し、万全を期してやっているはずですが、故障者が出ます。根本的な危機管理を徹底しなければなりません。この様なことから、教育内容のより一層の充実強化をお願いでき

れば幸いです。

この中間報告の6番目に「住民の防災意識の向上」の中で、消防団員の活動時の安全を確保する観点からも、また、住民の命を守るためにも、住民の防災意識、率先避難の意識の向上を図っていくことが重要とあります。

数年前の話ですが、県西南部に位置し、長い海岸線を有する町で台風が接近し、高潮の被害も予想される地域で、ある住民に避難を呼びかけたところ、なかなか応じてもらえず地元分団も困り果てていましたが、台風が最も強い時に住民から避難させて欲しいと要請があり、分団の車両が出動、避難は完了しましたが、風速が最も強い時であったため、分団の車両が破損し、かなりの修理代がかかったとのことでした。

東日本大震災後「絆」という言葉が多く使われています。テレビ等で見聞きしたことです。「絆」とは地震、津波等の大災害が発生したとき、健常者は自分自身の力で、確実に避難する自助が求められる、このことが家族間における本当の絆であるとありました。大災害だけでなく基本的にはどんな災害時でも言える事です。このようなことが住民に徹底できれば消防団をはじめ災害時に出動する各機関は重点的かつ効果的な災害防除活動が実施できます。東日本大震災を貴重な教訓として生かしていかなければと思います。

終わりに、佐賀県消防団員を代表致しまして、東日本大震災で亡くなられた多くの住民、そして職務遂行中に犠牲になられた防災機関の皆様の御冥福をお祈りいたしますとともに御遺族の方々に謹んで哀悼の意を表します。

財団法人日本消防協会役員会議の 開催について

財団法人 日本消防協会

平成24年5月22日（火）、日本消防会館において財団法人日本消防協会の理事会及び代議員会が開催されました。

この会議において、平成24年5月29日をもって任期満了となる日本消防協会の次期会長については、代議員会の推薦により秋本敏文理事長が第11代日本消防協会会長に就任されることが決定しました。

また、副会長には8ブロックから推薦のあった8名の方々が就任されることとなりました。

財団法人日本消防協会役員会議

理事会・代議員会（議長 木村副会長）

平成23年度事業報告及び決算認定、会長及び副会長の推薦、公益法人制度改革に伴う新法人における組織体制及び最初の評議員の選定、平成25年度の消防団関係予算に関する要望決議、その他各議案の説明が行われ、原案のとおり承認、決定及び認定されました。



代議員会 高木会長挨拶（秋本理事長代読）

本日は出席することができず、誠に申し訳ございません。深くお詫び申し上げます。

任期満了により、このたび会長を退任させていただきたいと考えておりますが、平成22年5月、会長の重責をお引き受けしてから2年間、皆様方には、多大のご協力を賜り、誠にありがとうございました。

特に昨年は、戦後最大の災害となった東日本大震災があり、当協会は、被災地の消防団の支援、国等への意見の提出、天皇皇后両陛下のご臨席の下での慰霊祭等、各般にわたる事業を行いました。

また、福祉共済事業については、極めて辛い決定も余儀なくされました。

こうした中で、役員の皆様方には、暖かいご支援、ご協力をいただき、お陰様で何とか任務を果たすことができたのではないかと存じております。心から感謝申し上げます。

首都直下地震など大きな災害の発生が懸念される中で、消防団員の減少傾向が続くなど、我が国消防は多くの課題に直面しておりますが、日本消防協会が、役職員の皆様のご尽力によって益々の発展を遂げられ、消防団活動の一層の充実、国民の安全確保などにご貢献いただくこととなりますよう切に願っております。

皆様の益々のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。



代議員会 久保消防庁長官挨拶

ただいまご紹介いただきました消防庁長官の久保でございます。本日は日本消防協会の代議員会にお招きをいただきまして誠にありがとうございます。

私どもの仲間である消防職団員の約数十名におよぶ多数の犠牲者が出ました東日本大震災から、早や1年以上経過いたしました。福島第一原発の事故による警戒区域というのが

未だ設定をされておりまして、私明日、地元の双葉広域消防組合消防本部を訪れて、激励をしてこようと思っております。

東日本大震災を踏まえた消防防災体制のあり方ということにつきまして消防審議会が昨年の夏から精力的にご審議を頂いて、この1月30日に一定の答申を頂きました。また、それと並行して秋からは消防本部、そして消防団それぞれにつきまして安全対策等の活動のあり方という検討の場をそれぞれ設けて議論して頂いておりまして、この春にはそれぞれの場で安全対策をどうやってやっていくのか、ということを中心に報告を頂きました。また、消防団関係につきましてはさらに引き続いて、この夏頃を目途に消防団活動の活性化についても議論をしていただこうと思っております。

いずれにいたしましても、大規模災害、今後もこれは起きることが確実にございますが、そういう中でやはり地域コミュニティー、これが防災意識の向上でございませうとか、防災教育を行うということが極めて重要でございまして、その中で消防団の果たす役割が極めて大きいものと考えておりますので、引き続き皆様方のご理解、ご協力を賜りまして私のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

○ 提出議案等

- 第1号議案 平成23年度事業報告について
- 第2号議案 平成23年度決算認定について
- 第3号議案 代議員会で推薦する役員（会長・副会長）について
- 第4号議案 役員等の推薦について（理事会のみ）
- 第5号議案 公益法人制度改革に伴う新法人における組織体制及び最初の評議員選定について
- 第6号議案 日本消防協会消防団員確保対策等委員会の設置について（理事会のみ）
- 第7号議案 日本消防協会地震等防災対策委員会委員、日本消防協会福祉共済事業等運営委員会委員及び日本消防協会消防団員確保対策等委員会委員の委嘱について（理事会のみ）
- 第8号議案 「平成25年度の消防団関係予算に関する要望」について
- 第9号議案 平成24年度JKA補助事業の補助金交付申請書の提出について（理事会のみ）

新たに推薦された正副会長は、以下の方々です。

（任期 平成24年5月30日～平成26年5月29日）

会 長

秋 本 敏 文

副会長

氏名	地区名	都道府県別
渡邊茂治	東北地区	山形県
石田詔夫	東京都	東京都
羽藤公夫	関東地区	長野県
今関正興	中部地区	静岡県
秋田治夫	近畿地区	大阪府
松浦嘉昭	中国地区	島根県
菰渕将鷹	四国地区	香川県
豊永義夫	九州地区	鹿児島県

生活協同組合全日本消防人共済会の役員会議の開催について

財団法人日本消防協会の役員会議に引き続いて、全日本消防人共済会の理事会、総代会が開催されました。

全日本消防人共済会理事会、総代会

平成23年度事業報告及び決算認定、平成23年度剰余金処分案等の各議案の説明が行われ、原案のとおり承認、決定及び認定されました。

○提出議案（理事会及び総代会）

- 第1号議案 平成23年度事業報告及び決算認定について
- 第2号議案 平成23年度剰余金処分案について
- 第3号議案 役員の改選について
- 第4号議案 全日本消防人共済会役職員給与規程の一部改正について

全日本消防人共済会理事会

先の総代会において承認された新たな理事により理事会が開催され、全日本消防人共済会の会長等の互選等が行われ、秋本敏文理事が次期会長に選出されました。

「消防団の店」現地ルポ(1) 愛知県瀬戸市

一消防団を知ってもらう一

在日米海軍司令部地域統合消防隊 予防課長

長谷川 祐子



日本消防協会では、消防団員の福祉厚生や団員確保を目的として、団員が買い物等をすれば割引を受けることができるようにする事業（消防団の店）の例が、最近各地で見られるようになり、興味を集めていますので、現地の様子取材していただきました。

愛知県瀬戸市にあるユニークな制度取材に行きました。瀬戸市消防団応援事業所（ガンバレ消防団応援事業所）という制度です。ここではなんと消防団員証を提示すると地元のサポート事業所261事業所で商品の割引やサービスを受けられるのです。3・11の震災前、平成22年10月から実施しているとのことで 既に1年6ヶ月が経過しております。この事業の後を追う形で南アルプス市や関市なども同じような制度を取り入れています

現地を訪れ 消防本部（遠山消防長）にてこの事業を取りまとめた森山消防課長より説明を受けました。驚きました 非常に考えられた事業制度でした 目的は『市民に消防団のことを知ってもらう』ことです。

災害時に消防署以外に消防団という存在の必要性を認識している人達が市民のなかにどれくらいいるのでしょうか？ 思ったより知らない方たちが多いのです。この制度は、

- ・消防団員が市を回って商店に参加を呼びかける。（顔を市民に見せる）
- ・商店主がこの制度を知って自ら参加を

申し出る。（消防団が利用するようになり おたがいに知り合いになる）

- ・公的機関が消防団のポスターを目立つ所に貼ってくれる。

その結果市民に消防団のことを知ってもらえて、関心を持ってもらえる。

その副産物として消防団員は市民や商店主の関心を感じる事ができる。ボランティアの精神を誇りに思うことができる。商品の割引を受ける事ができる。

商店側も社会貢献を広報できる。売り上げが伸びる。消防団に覚えてもらえることで防災訓練の時など消防団サイドよりのサポートをもらえる。という訳です。

地域の防災力の向上、その中に地域の活性化を入れ込み商店主や事業所そして公的事業所と消費者でもあり地域の防災の担い手でもある団員を結びつける。顔と顔が見える関係になり、いざ災害の時の強力な地域力になることを目指す大変ユニークで高水準レベルの事業です。

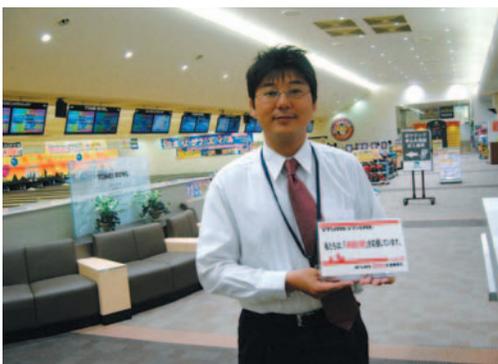
実際にお店に伺いました。



アオキーズ ピザ

アオキーズ ピザ：フランチャイズのピザ屋さんですが 消防団詰所に近い立地条件と10%割引引きというサービスで、団関係の注文が増えてきているようで制度に参加して満足しているとのこと。この店長さんの素晴らしいところは自分からこの制度のことを調べ納得して参加したところです。自分は毎日の仕事に追われとても団員として参加はできないが代わりに応援事業に参加をすることで消防団に応援のエールを送りたい。と話してくれました。また宅配のスクーターには表示証がしっかりと貼ってあり事業を広報してくれております。

東名ボール：地域で唯一のボウリング場で40レーンほどの規模です。訪れたのは平日でしたが賑わっており、中村店長が応対してくれました。近年集客に色々工夫をしていて来客が増えているそうです。その中



東名ボール

の一つとしてサポート事業にも参加をしたそうです。年2回避難訓練も実施しており、今回は消防署の勧めで加入していただいたようです。1ゲーム50円引きでサービスをしています。サービスカウンターと入口に応援事業所の表示証が貼ってあります。ただし、消防団員の利用度は月に数回で今のところ期待通りではないようです。土日にご家族で来店いただきたいし、消防団ボウリング大会なども開いて欲しいとのことでした。

駅ステーション：お昼を食べに寄ったのは1階の中華屋さんです。台湾の人達だけで運営しているため 少し意思疎通が難しいようですが“消防団知ってる？”と質問しますと“〇〇消防団ね”と即答でした。後ほどこちらを開拓した田中副団長にお聞きしましたが、よく団で利用しているようです。料理サービスが受けられますし、美味しいレストランでした。

また、こちらのビルは瀬戸市の運営であることから、ビルの2、3階には市民が毎日集まる場所になっています。その中に沢山の消防団のポスターを見ることができました。消防署が署にあるありったけのポスターを貼ってくれていました。あらゆるチャンスを捉えての広報に脱帽でした。

消防団員との話し合い：お昼からの一番の楽しみの消防団員との集いです。忙しいなか5名の女性消防団員と谷崎団長と田中副団長が迎えてくれました。女性消防団にこの事業の事を知っているか又利用しているかを聞きましたところ 皆さん口を揃えて“ローソンの10%割引は日頃より利用している”と話してくれました。でも自分たちで新しい店を開拓していくなどといったことは実施していませんでした。やはりこの分野は男性消防団に頼っているようです。

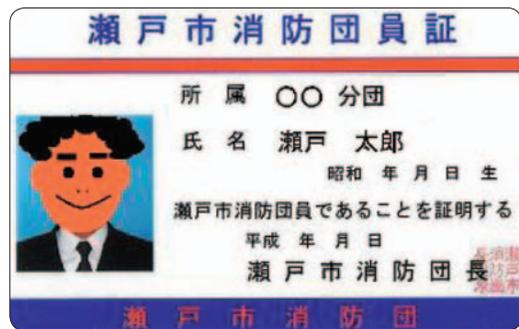
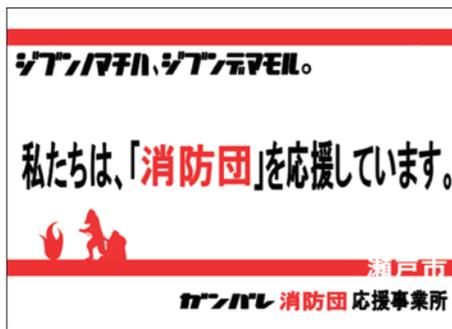
谷崎団長と田中副団長はもちろん実績がありました。女性消防団にも参加していただくと自分達の活動を市民に知っていただくことになるので是非参加していただきたいと思いました。(がんばってください)

最後に：現地へ伺ってみて始めてこの制度の仕組みが理解できました。消防団認知と発展のためにとても優れた制度であるとの思いを強くしました。日本中に広がっていくといいなと考えました。イザ災害の時、消防署と消防団そして地域住民が揃って災害に立ち向かうことが大切です。



瀬戸市消防団長と女性団員の皆さん

日頃から地域の人達に消防団を認識してもらい、存在を見せ、地域防災力の要となる。その思いを育み育てているこの制度に心より応援をおくります。



(事業の概要)

- 事業開始時期：平成22年10月1日から
- 店舗募集：市広報紙を通じて登録募集、消防団員による呼びかけ
- 加入店舗数：169事業所
- 加入業種：コンビニ、ピザ宅配、ボウリング場、メガネ店、飲食店、理容店、カーディーラー等
- 特典内容：料金割引サービス、ドリンクサービス等
- 住民への周知：ホームページ、チラシ、ポスター、看板

「消防団の店」現地ルポ(2) 岐阜県関市

—関市消防団サポートプロジェクトを訪ねて—

赤羽消防団副団長 小澤 浩子



関市消防団は、平均年齢34歳という若い世代の多い消防団です。最高齢は71歳まで務められた副団長の例があります。

平成17年の大合併により、旧関市、洞戸村、板取村、武芸川町、武儀町、上之保村の6消防団の組織を残し関市連合消防団となり、平成18年に6方面隊(23分団)からなる新生関市消防団がスタートしました。旧関市を要の部分にV字型に広がる管内は団員の入団状況や地理的条件、また暮らしぶりも異なり、団の運営には多大のエネルギーを必要とするようです。中山間地域は山が多く災害も多い所です。旧町村部分は昔から「団に入るのは当たり前」の気風がありましたが現在は人口そのものが少なく団員のなり手を探すのも大変です。旧関市管内は防災への関心が必ずしも高いとはいえない新住民も多いのです。条例定数は1315人。実員は1185人で充足率90%。うち8人が女性です。いわゆるサラリーマン団員は70%強で、団員の確保が大きな課題となっています。

今年度は団の再編をはかり、団施設の耐震化実施がメイン事業です。昨年度末の調査により118箇所の詰所を48に統合し、地域の安全安心をさらに増強する予定です。

団員サポートプロジェクトは、消防団員の減少を食い止めるため、地域の商店街や公共施設の協力により、団員自身とその配偶者を対象に割引等のサービスを提供する事業で、平成23年7月に開

始されています。団員はもとより活動を支えてくれる家族へのサポートが目的で、参加店で名刺型のカードを提示すると割引やポイントの加算などのサービスが受けられます。現在約120店が参加していますがその職種は飲食店、雑貨店、自動車整備業、美容院、温泉施設等多岐にわたり、また市内全域に協力店が存在します。当初は事務局から地元の商店街組合、商工会などに働きかけて協力店を募りましたが、今では団員の口コミにより趣旨に賛同した店の参加もあるそうです。

サポート協力店にはステッカーが配布され、市の広報紙やホームページで団員や市民に伝えられます。店のイメージアップやPRにもつながるメリットがあり、地元の商店利用が増えることで地域の活性化にもつながることが期待されています。

きっかけは「操法大会の訓練時などに大きな負担をかける消防団員の家族のみなさんに団の活動を理解していただくことが何よりである」という、防災に熱心な前市長の発案によるものです。

地元の商店街の受け止め方も前向きで概ね理解していただき、組合で取りまとめて協力して下さっているそうです。お店の名前を知ってもらい、9万4千人の市民のうち2~3千人に利用していただければと期待されています。

予算は、団員用のカードと店舗に貼っていたくステッカーの印刷代のみで初年度は10万円でした。身分表示のため、団員手帳は家族が使用できないことから名刺サイズのカードが作られまし



名刺型カード

た。濃淡のオレンジ色で消太くんと関市のイメージキャラクター「関*はもみん」があしらわれ、太字で「関市消防団」、その下に小さく「関市消防団 サポートプロジェクト」と記されています。サポートステッカーには「関市消防団」の名称の上に「ありがとう」と表示されています。大きさはA4サイズくらいです。

現地での聞き取り

ドラッグストア ハローヘルス：制度が導入されまだ1年も経っていないことから、目に見えた変化はないそうです。団員の利用は月に1~2人です。協力店参加への呼びかけが本社に届いたことから参加しました。この店の店長さんは、居住する美濃市で消防団に入団しており、団活性化への理解も深いようです。最近近くに大手のドラッグストアが相次いで開店したことから、店のPRになるならなんでも協力しましょうという考えもあるそうです。社会貢献を打ち出せることにメリットも感じ、店の広告やチラシにもサポート協力店であることを掲示しています。ドラッグストアは若い男性の利用が少なく、化粧品などを求める女性の客が多いことから、もっと市の広報等で団員の家族にも周知してほしい、ステッカーが小さく目立たないので、ポスターサイズにしてほしいなどの希望が伝えられました。

登録店が県全体に広がり、大型店でも使える「岐阜っ子カード」の利用率は高いので、消防団員用のカードも全国規模になったらもっと良いし、クレジットもOKであるとのことでした。



市営総合体育館 若草プラザ：関市のシンボルカラー若草色の大きな施設。ジムやプールもある立派な体育館です。市民の利用も多いそうです。この施設では400円のプール利用代金が100円になります。残念ながら利用は団員本人に限られている

ことからほとんど利用されておらず、ご家族も対象にすることが課題であると思いました。

いずれにしても公共の施設が率先してサポート事業に加わっていることは高く評価できます。



商店街：商店街関係のみなさんにお集まりいただきお話を伺いました。

市役所からサポート事業導入の相談を受けたせき商連の藤井市三理事長は、商店街の活性化につながると思い、組合員のみなさんの勧誘に奔走されました。事業がスタートしてみると、思ったより利用者が少ないという感想です。組合員の中にも自主防災組織で活動している方もあり、また地域の安全・安心を守るのは消防団だけではないので、あまり大っぴらに宣伝することは避けたいとお考えからステッカーも小さいものを希望されました。お得意様の手前、遠慮しながらの協力ということでした。

ただ、この制度がスタートしてから、全国からの問い合わせや視察があり、その反響には驚いておられるようです。つい先日でも秋田や会津若松からの視察があったそうです。

今後、全国展開もクレジット利用も賛同できるというお話です。カードにクレジット機能を付けても現金でも買い物できれば問題は無いという見解です。

関市では震災以降いまだ景気が上向かず、市民の外出も控えめだそうです。「ポイント加算より現金割引にしてほしい」との声もあるそうなので伺いましたら、ポイントの加算も評判が良いとのこと。確かにポイントであれば、次にも同じお店を使ってもらえるメリットがあります。1年以内に何らかの利用があれば、ポイントの消滅は無いそうです。

ここでも利用頻度の高い「岐阜っ子カード」の話が出ました。ある年齢以下の子どもを持つ保護者などが割引を受けられるカードで、参加店も多

く、県内全域で使用できるカードということです。消防団サポートプロジェクトももう少し盛り上がりればと望んでおられます。

藤井理事長経営のスーパー マルヘイ

お話を伺った後お店を訪ねました。背広姿から、店名入りのオレンジ色のジャンパー姿に変わった藤井理事長にお話を聞きました。由緒ありげな細長い商店街の中ほどにお店があります。野菜・果物・肉・魚から鉢植えの花まで、生活に必要なものは何でも揃いそうなお店です。以前はご近所に多くの食料品店がありましたが、今ではマルヘイさんのみとか。日常使う商品なので利用も多いかと思いましたが、店の周りに住む団員が少ないということです。お店の活性化のためにも各協力店自らも団員確保にご協力をいただく必要があります。

また、やはりステッカーが目立ちませんので、ステッカーのオレンジ色はお店のカラーととても合いますし、お店を利用するお客様たちにとっても消防団の存在は大切なので、大きなポスターを掲示してもお客様に失礼には当たらないとお話をさせていただきました。

課題：ひとつは事務的なことで、カードの更新をどうするかということです。退団する団員もいるためにカードには1年ごとの有効期限が印刷されています。更新のたびに費用もかかり、手間もかかります。



各店舗の要望もあり、どのようにPRするかも課題です。また参加店を増やすことが盛り上がりに通じますが、団員からの要望も多い、日常的に利用できる店舗の開拓が求められます。行政主導で始まった事業ですが、団員自らも、「自分にとって使えたら有り難い店」への働きかけを強める責務がありそうです。

今後の展開：事務局である関市危機管理課主事寺町知宏さん個人にとっては、全国展開こそが最終目標との思いがあるようです。大手チェーン店にも参加してもらえればそれなりのメリットも考えられます。一方で地元商店への還元も大切であり、そのバランスが難しい所です。そのためにはお店の紹介をもっとすることを考えています。

クレジット機能に関しては賛否両論あるようですが、カード提示で現金支払いも併用すれば可能性が開けます。今後は日常生活で使えるスーパーなどへの働きかけを強めるそうです。

1年経ったところで利用状況などをまとめる予定ですが、県内では隣接の加茂市消防団で同じような制度がスタートし、各地から問い合わせや視察が相次ぎ反響の大きさに手ごたえも感じています。

継続していくことが何より大切と決意を述べる寺町さんですが、今後もこの事業は家族へのサポートを主体に進めたいと抱負を述べられました。

家族の笑顔に支えられることで、それぞれの消防団員が誇りをもって活動できること、消防団員やその家族の利用が増えることで商店街が活性化すること、さらに商店経営者のみなさんも団員確保に協力することで顧客の増加が図れること、同時に消防団自体も団員の退団を減らし、新たな団員の入団に期待がもてること…間もなくスタート1年となる「消防団サポートプロジェクト」により関市も益々元気になり、地域の防災力も一層高まるものと信じています。広く市民の方に理解していただくことで市内での参加店舗の数も年々増えていくことでしょう。

消防団員として勇気の湧くお話を沢山聞かれました。このような消防団応援体制が全国に広がることを強く願っています。

関市のみなさん、ご協力有難うございました。

(事業の概要)

事業開始時期：平成23年7月から

店舗募集：商店街組合、商工会を通じて募集

加入店舗数：約120店

加入業種：飲食店、雑貨店、自動車整備業、美容院、温泉施設等

特典内容：料金割引サービス、ポイントの加算

住民への周知：市広報紙、ホームページ、ステッカー



「地域に根ざした消防団を！」



須坂市消防団 団長 依田 浩明

1 須坂市の紹介

須坂市は長野盆地の東部に位置し、西は盆地中央を流れる千曲川をはさんで長野市に、南は長野市若穂地区と上田市に、北は小布施町に、北から東にかけて高山村及び三国山地をもって群馬県妻恋村に接しています。人口は5万2千人余、面積は14,984㎡の都市です。西は海拔340m前後の平坦部で、東は2,000m級の山々から、いく筋もの川が流れ、その扇状地に街や田畑があります。過去に、いく度かの河川の氾濫や、土石流の災害を受けた地域でもあります。

2 須坂市消防団の概要

須坂市消防団は音楽隊を含む団本部と、地域ごとに11個分団37個部の合計876名(平

成24年4月1日現在、条例定数881名)で構成されています。装備については、小型動力ポンプ付積載車15台、小型動力ポンプ33台が配備されています。

3 須坂市消防団の活動

近年、地域防災の要としての消防団に、年々多くのものが求められるようになり、火災時の消火活動を始め、水防活動、大災害時の避難誘導、各地域行事の特別警戒、行方不明者の搜索など、活動内容は多岐にわたるようになってきました。それに伴い、これらの活動に備える為、基本訓練である規律訓練、放水訓練、中継送水訓練、山林火災防ぎょ訓練、総合防災訓練、普通救命講習、S-KYT研修など活発な訓練を行っています。予防消防の活動にも力を入れており、年2回の消防団広報紙「さくら」の発行、各分団での積載車による定期的な巡回を行っております。

音楽隊も市をはじめ各種団体の出演要請により、演奏活動を通じて予防広報を行っております。毎年、秋の火災予防運動中には、消防団音楽隊定期演奏会を開催しており、昨年で27回を数えました。この定期演奏会では、約1,000人



市防災訓練

の会場で立見が出るほど市民に親しまれております。

また、ラッパ隊は平成元年に、長野県消防ラッパ吹奏大会優勝以来、県大会出場9回連続優勝を続けており、各種団体の出演要請や、市内で行うラッパパレードを通じて予防広報を行っております。



定期演奏会

4 おわりに

須坂市では多くの分団で各地域の区長、市議会議員をお招きして消防懇談会を開催しております。区長からの要望、逆に消防団からの要望等を出し合い、共に地域をより良くする為に意見交換を行っております。そんな中から区の役員や、各区にある地域防災組織との連携を深め、区で開催する初期消火訓練では、消火器の取り扱い方や、消火栓の取り扱い方法の指導を消防団員が行うようになりました。

「青年団」がなくなり「婦人会」や「老

人会」などの地域のコミュニティ組織がなくなりつつある現在、消防団は数少ない地域的な組織であり、同時にこれから地域を支える若者を育てる組織でもあります。地域を愛してこそ消防団であり、地域から愛されてこそ消防団であります。

須坂市消防団はこれからも、地域に根ざし、地域と協調し、共に地域の安心・安全を守り育てる原動力であり続けてまいります。



消防出初式



「安全で安心なまちづくりへの取り組み」



北九州市戸畑消防団 団長 高木 壽則

1. 北九州市戸畑区 の紹介

北九州市は昭和38年に五市対等合併で生まれた九州初の百万都市で、九州の最北端に位置し、海陸交通の玄関口となっています。戸畑区は市のほぼ中央に位置し、工場地帯として発展し、現在も約半分を工業用地が占めています。

また、国の重要無形民俗文化財、福岡県夏の三大祭の一つとして、「戸畑祇園大山笠」があり、広く「提灯山」と呼ばれ、夏の夜空に輝く赤い光のピラミッドは豪華絢爛です。

2. 戸畑消防団の紹介

明治21年、現在の戸畑消防団の起源となる私設の戸畑消防組が創設され、昭和22年の消防団令により、戸畑消防団と改称し、現在団本部と5個分団、定数140名、実員数138名（内女性団員20名）で編成、指揮車1台、消防ポンプ自動車5台を配備し、地域の安全、安心のまちづくりに取り組んでいます。



空き缶プラタブ収集による社会福祉施設へ車いす寄贈式

3. 戸畑消防団の活動

北九州市戸畑区は、明治34年「八幡製鐵所」が建設されたことから、工業都市として急激に発展した街です。そのため、当時急増した人口に伴い、多くの木造家屋密集地域が多く存在しています。また、高齢化率も進んでおり、全国平均を上回っています。

このような状況から、一旦火災が発生すると、延焼拡大や、高齢者の逃げ遅れが懸念されているため、次のような取り組みを行っています。

- (1) 全国初!!動く!光る!「パネルシアター」効果的な住宅用火災警報器の設置推進

のため、平成12年に女性団員によるパネルシアター劇団を結成しました。地域住民に効果的に伝えるため、団員が試行錯誤し、暗い部屋でブラックライトを使用し、蛍光人形によって動きのある防火劇を作り上げ、市民センターや自治会の行事で公演し好評を得ています。また、防火・防災教育の推進として若年層向けのシナリオも作成、幼稚園等からの依頼も相次いでいます。

平成22年度には、第16回全国女性消防団員活性化奈良大会にも出場しました。

(2) 空き缶のプルタブ収集活動

社会貢献の一環として、平成14年度から「福祉施設に車いすを贈ろう」と、空き缶のプルタブ収集を開始しました。徐々にこの運動の輪が広がり、学校や企業、多くの市民の方々からご協力いただき、これまでに合計36台の車いすを購入し、市社協を通じて、社会福祉施設に寄贈することができました。また平成18年度からは、売却金での購入品目を住宅用火災警報器等にも広げ、これまで114個を寄贈、消防団員がこれを無償で設置しています。

(3) 腕自慢おまかせボランティア

日常生活において自力で対応できない簡単な大工工事などを、ボランティアで自宅に出向いて行うサービスで、全団員が登録し、依頼内容により、生業の職業上の特技を活かした団員が活動しています。



腕自慢おまかせボランティア

これらの活動に対して、平成22年度「第15回防災まちづくり大賞」住宅防火部門総務大臣賞をいただきました。これからも、地域に根付いた活動で、住民から信頼される消防団活動に尽力してまいります。

4. おわりに

戸畑消防団では、警防力の強化のため、地域住民との連携・協力の充実強化等を図り、自衛隊、警察、市民防災会、区役所、消防署等の防災関係機関とも連携して、訓練を実施しています。また、消防署の各小隊が各地元消防分団を担当することで、原則、毎月1回、署・団合同で火災防御等の実践訓練を実施することにより、互いに顔の見える関係を築き、効果的な消防活動を行う体制を構築しています。「いきいき安心訪問」として、女性団員による高齢者宅の防火訪問、救急隊員とともに応急手当の普及活動の実施等による予防広報活動にも力を入れています。これらの活動を通して、今後も「安全で安心なまちづくり」に取り組んでまいります。



「熊野の再生を願い 活動する消防団」



那智勝浦町消防団 団長 前地 俊秀

1 那智勝浦町の紹介

那智勝浦町は、和歌山県南東部に位置する人口約1万7千人の町です。

本町には、世界遺産に登録されている紀伊山地の霊場と参詣道「熊野古道」がとおり、名瀑那智の滝、熊野三山「熊野那智大社」、西国33カ所巡礼1番札所「那智山青岸渡寺」があり、癒しを求め多くの方が訪れています。

勝浦港は、生まぐろの水揚げが多く近畿最大の漁業基地として活況を見せており、周辺には多数の温泉旅館があり、多くの観光客を受け入れています。

2 消防団の概要

那智勝浦町消防団は、昭和30年4月、4カ



幼年消防パレード



消防艇「はくりょう」の放水

町村合併に伴い4個分団256名で誕生しました。

昭和35年1月、2カ町村の編入により6個分団366名となり、昭和58年の団組織改編により8個分団となり、現在259名（うち女性団員32名）の団員が活動しています。

資機材は、タンク車1台、ポンプ車7台、ポンプ積載車両9台、司令広報車1台を配備しています。

3 那智勝浦町消防団の活動

各分団別に年5回の定期訓練を実施し、隔年に消防団全体で新人教養訓練及び幹部教養訓練を実施しています。

那智山で実施される文化財

防火デーに伴う消防訓練には地元分団が参加し、勝浦港で実施される水難救助及び船舶火災を想定した海上保安庁・民間船舶会社との合同訓練にも消防艇「はくりゅう」に乗船し、消防本部と合同で参加しています。

団員の士気高揚を図る消防操法大会においては、第1回全国消防操法大会出場をはじめ、数度の出場をはたし、平成17年には女性消防団員も全国大会に出場し、共に全国レベルの技術を誇っています。

又、女性消防団員は、消防本部が実施する「幼年消防パレード」、「消防の集い」、「独居老人訪問」に参加し、火災予防を呼びかけています。

昨年9月の台風12号に伴う那智川・太田川流域の大水害では、自ら被災した消防団員も多い中、多数の団員が救助活動、捜索活動を長期にわたり行いました。



台風12号 各機関合同捜索

4 おわりに

今回の台風被害を受け、又、近い将来確実に発生すると言われていた東南海・南海地震に備え、消防本部との連携をより深め、被害を最小限に抑えるため合同訓練等を数多く行う計画を立てているところです。

最後になりましたが、昨年の台風12号に伴う水害では、日本消防協会をはじめ、全国の消防団の方々から多くのご支援ご協力を賜りましたことに感謝とお礼申し上げます。



台風12号に伴う水害



消防団・消防本部合同避難訓練



シンフォニー（秋田県）

「あんべいい消防団を目指して」

秋田市女性消防団 団員

木村 綾子

秋田市は秋田県のほぼ中央部に位置し、人口は約32万人あまりで、東北では仙台市に次ぐナンバー2の県庁所在都市です。東には出羽山地、西には夕陽の美しい日本海と自然豊かで、米どころ秋田らしく市内には多くの酒蔵があり、郷土料理のきりたんぼ鍋に良く合う美味しい地酒が味わえます。

私たち秋田市女性消防団は平成18年に3名で発足し、現在は19名の団員がおります。

毎年の出初式をはじめとし、5月5日の子どもの日に消防署で行っている消防と子どもの集いや火災予防週間の行事に参加し署員の方々のお手伝いをする他、救命講習を受講しそれぞれが指導員を目指し頑張っています。私が消防と子どもの集いに参加

するようになって5年目ですが年々遊びに来て下さる市民の方々、子どもたちの数が増えているように思います。憧れの消防車を前に目を輝かせながらも、本物の消防士さんやレスキュー隊に緊張気味の子どもたち。固まってしまっているそんな姿もとても可愛らしいのですが、そんな時に私たち女性消防団員が「消防士さんと同じ服を着て写真を撮ってみようよ！かっこいいよ！」などと声をかけると少し緊張もほぐれリラックスしてイベントを楽しんでくれるような気がします。同じく、住宅用火災警報器の普及活動などで一般家庭を訪問させていただく際にも、女性が来てくれると話しやすいなどという声もいただき、その

ような時には女性団員ならではの役割が果たしているのかなと感じます。

また、広報活動が中心だった私たちですが平成21年には軽可搬ポンプ操法の訓練を開始し、その年10月に横浜市で開催された第19回全国女性消防操法大会に秋田県代表として参加させていただきました。全国大会という大舞台、緊張もあり思うように練習の成果は発揮できませんでしたが、消防団員として操法の技術を身につけると



消防と子どもの集い スタンプラリー受付

いうことはとても大切なことであると思いますし、それに伴い規律やチームワークが向上していくことも大きな収穫です。

さて、表題にある「あんべいい」ですが、これは秋田弁で「塩梅が良い」つまり「ちょうど良い」という意味です。実は現在、秋田県の認知度を高めるための県のPR活動の中で『あんべいいな秋田県』というコピーが使われています。私たちはいつも地域の方々の安心・安全のために活動したいと言っていますが、具体的にはどういったことができるのか。秋田市の中でもお年寄りが多い地域、若い世代が多い地域と様々です。1人暮らしのお年寄りに対しては住宅の防火診断やこまめな声かけであったり、子どもたちに対して火災予防の啓発劇をすることでその親御さんたちが安心できたりと、私たちが活動していく中で「女性団員がいてくれて良かったな」「安心して快適に過ごせるな」と感じていただけるような、その地域に合ったきめ細かい活動ができることを目標



消防と子どもの集い チビッコレスキュー体験着がえお手伝い



消防と子どもの集い 住宅用火災警報器普及活動

にしていきたいという気持ちを「あんべいい」に託しました。

最後になりますが、来る本年11月16日～17日、第18回全国女性消防団員活性化秋田大会が『美の国へようこそ！女性消防団員

秋田で元気に』をテーマに開催されます。会場となる秋田市でも全国の女性団員の方々をお迎えするべく私たち団員が一丸となって一生懸命準備しているところです。私たちが毎年メンバーの中から数名ずつ交代で全国各地の活性化大会に参加させていただいていますが、参加してくると皆口を揃えて「本当に素晴らしくとても勉強になった」「寸劇は皆女優さんのようだったり吉本顔負けの笑いがあったりした」と言います。そしてもちろんご当地の美味しい物、観光も満喫してきたということが顔に書いてあります(笑)。

本年は私たちの番。実りの季節の秋田で、皆様にとって、そして私たちにとっても実り多き大会となるようこれからも精一杯の準備をし、美味しい新米と地酒とともにお待ちしております。

頑張れ! 少年消防 クラブ

No.51 矢口消防少年団（東京都）

決意も新たに!矢口消防少年団入卒団式

矢口消防署 防火管理係 関口 一郎

当署は平成24年4月21日（土）、「平成24年度矢口消防少年団入卒団式」を行いました。

新入団員8名は、大勢の来賓や保護者の前で辞令交付を受け、自分達も防災の役に立とうと緊張した面持ちで決意を新たに、今後の活動に思いをはせていました。

また副団長から昨年の東日本大震災において被災地の少年消防クラブである階上中

学校に応援メッセージを送った活動が発表されると保護者の方々は深く聞き入っていました。新しい仲間が加わった団員達は、広報用パネルを活用した「地震その時10のポイント」の普及活動や、AEDを使用した心肺蘇生法、担架による搬送法などの応急救護訓練を披露しました。出席した来賓や保護者の方々に、生き生きとした眼差しの元気な消防少年団の姿を見せていました。



少年団入卒団式

消防職団員のための各種共済事業等について 福祉共済事業・消防互助年金事業・火災共済事業

(財) 日本消防協会・(生協) 全日本消防人共済会

○福祉事業

昭和44年7月に発足しました消防団員福祉共済事業は、当初民間保険会社へ委託方式でスタートしましたが、昭和55年7月から財団法人日本消防協会による自家共済へと移行し、名実ともに消防団員の共済制度として多くの実績を上げてきました。

発足当初の消防団員の加入者数は、9,400人余で、加入率は0.8%にすぎませんでした。42年を経過した平成24年3月末日の加入者数は872,111人で消防団員のほぼ全員と消防関係者が加入しており、この種の共済制度では他に例をみない極めて高い加入状況となっています。

また、給付内容については、自家共済となった昭和55年以降加入者への手厚い補償を第一に給付金の増額に努めてまいりました。平成23年3月11日に発生しました東日本大震災は、未曾有の巨大災害であり、かつてない極めて多数の消防団員が殉職されたことに伴い、共済制度としてこれまでの額の共済金を支払うことが困難となったため、特例措置を講じましたが、平成24年2月23日以降に事由の発生した弔慰金、重度障害見舞金につきましては、東日本大震災発生前の給付内容といたしました。

また、掛金につきましても24年度に限り4,000円をお願いしましたが、25年度以降は従来の3,000円に改定することとしました。

消防団員の方々が消防活動に際してのみならず、不慮の事故や病気による入院等、万一の場合に低額な掛金で充実した保証を実現できることから、この事業は相互扶助の観点から大きな役割を担っているといえます。

1 福祉共済の給付内容

加入者（消防職・団員等以下「団員等」という。）が被災した場合に福祉共済事業から給付される内容は、大災害等が発生し、共済金の支払いが困難となるなどやむを得ない場合を除き次のとおりであります。

(1) 遺族援護金

団員等が事故または疾病により死亡した場合には、遺族援護金として100万円が支給されます。

(2) 弔慰金、弔慰金救済金、重度障害見舞金

災害現場等において、公務により死亡又は重度の障害状態になった場合、弔慰金又は重度障害見舞金として2,300万円が支給されます。

(3) 生活援護金

団員等が事故または疾病により両眼を失明するなどの重度の障害の状態となった場合には、生活援護金として100万円が支給されます。

(4) 障害見舞金

団員等が事故または疾病を原因として障害の状態になった場合には、その障害の状態の程度に応じて6万円以上50万円以下の範囲において、障害見舞金が支給されます。

(5) 入院見舞金

団員等が事故または疾病の如何を問わず、15日以上入院した場合に、入院期間120日を限度として、日額1,500円の入院見舞金が支給されます。

(6) 保育援護金

災害現場等において、公務により死亡し、又は重度障害の状態の場合であって、当該 団員等に未就学の被扶養者がいる場合は、保育援護金として被扶養者一人につき25万円が支給されます。

2 加入資格者

(1) 加入資格者

福祉共済への加入資格者は、年齢80歳6ヶ月未満の消防団員等で効力発生の前日において健康であるもの。ただし、継続加入（更新）の場合は健康状態を問わないものとされております。

(2) 加入を希望する消防団又は消防本部ごとに加入者をとりまとめ、所定の申込用紙に必要事項を記入の上、各都道府県協会へ提出することになっています。

3 共済掛金等

(1) 共済掛金

平成24年度の掛金は、加入者一人あたり年額4,000円です。平成25年度からの掛金は、加入者一人あたり年額3,000円です。

(2) 共済期間

毎年4月1日から翌年の3月31日までの1年毎に更新することとしています。

なお、年度途中で新規加入も認められています。この場合は、その年度が終了する3月31日までの残りの期間を補償することとなり、残期間に応じて、掛金も逡減する仕組みになっています。

(3) 掛金の払込

毎年契約更新月である4月1日の前月の15日、即ち、3月15日までに都道府県消防協会へ掛金を送付しなければならないことになっています。

なお、年度途中の加入者については、毎月15日までに所定の書類を添えて、都道府県消防協会へ送金すれば、翌月の1日から効力が発生することになります。

4 共済金の請求と支払い

共済金の支払事由が生じたときは、所定の消防団員福祉共済金支払請求書兼領収書を作成し、必要に応じ添付書類を添え、都道府県消防協会を経由して日本消防協会（福祉部）へ提出する。当協会では、提出された共済金支払請求書を審査決定し、都道府県消防協会及び市町村消防団事務担当課を経由して受取人に共済金が支払われることとなります。

なお、支払共済金が遺族援護金・弔慰金の場合、その受取人の順位は、配偶者、子、父母、孫、祖父母、兄弟姉妹の順とし、父母については、養父母を先とし、実父母を後にすることとなっており、また、受取人（兄弟姉妹等）が二人以上に及ぶ場合は、代表受取人に対する委任状又は分割請求書等が必要となります。

5 福祉増進事業

- (1) 加入者の健康増進及び公務による事故の防止に資する事業
- (2) 消防団の大規模災害活動に対する支援事業
- (3) 殉職会員の慰霊祭の事業
- (4) その他この制度への加入促進と維持発展を図るため効果的と認められる事業

以上、消防団員福祉共済事業のあらましについて述べましたが、昭和44年の制度化以来、一貫して低廉な掛金で高額な保障を目指して事業運営を行ってきた結果、消防団並びに関係各位のご理解を得て、平成8年7月1日に、消防団員のほぼ全員の加入を見るに至り、この制度も完全に定着したといえます。

冒頭にも述べたように、真に消防団のための共済事業として、少しでも消防団員のお役に立つべく、今後とも、一層の努力をしていかなければならないと思っています。

併せて、消防団員の処遇改善の一助として、この制度に対する市町村ご当局を始め、関係各位のより一層のご支援ご協力をお願いする次第です。

○消防互助年金事業

人生80年時代、老後をいかに充実させるかは、誰しも大きな関心事です。公的年金の支給開始年齢が段階的に65歳へ引き上げられています。定年後からの生活設計を考えなければなりません。

消防互助年金制度は消防団員等の老後の安定と福祉の向上のため創設された制度です。予定利率は1.25%（平成24年5月1日現

在）となっており、一人でも多くの方に参加していただき、この消防互助年金制度をさらに大きなものに発展させていきたいと考えています。消防団員一人ひとりの老後のゆとりと生活向上のために、一層のご理解とご協力をお願いします。

1 消防互助年金の特徴

- ①積立方式の年金制度で、加入コースには税制適格コースと自由選択コースの二種類があります。
- ②年金は支給開始時に10年確定年金（3%逡増型・定額型・5年前厚型）と10年保証終身年金（3%逡増型・定額型）の五種類から選択できます。また、年金に代えて一時金で受け取ることもできます。
- ③中途脱退年金受給資格を取得した場合には、支給開始年齢に達する前でも、年金で受け取ることができます。
- ④途中で脱退した場合はそれまで積み立てられた一時金をお支払いします。また、途中で死亡された場合はそれまで積み立てられた一時金に1回分の掛金を加算した額をお支払いします。
- ⑤自由選択コースについては、積立期間中に一部払い出しができ、結婚・住宅・教育などの資金に活用できます。
- ⑥払込保険料は、税制適格コースの場合は個人年金保険料控除、自由選択コースの場合は一般の生命保険料控除の対象になります。
- ⑦年1回の決算に基づき、加入者の積立金を計算し、積立金残高をお知らせします。
- ⑧消防団を退団した後も継続加入できます。

2 加入資格

本制度に加入できるのは、消防団員、消防職員、消防事務担当で、年齢満60歳未満(税制適格コースは満55歳未満)の方です。

3 新規加入申込みと加入契約日

- ①新規加入の申込みは、いつでもできます。
- ②加入日は、1月1日、4月1日、7月1日及び10月1日の年4回です。

4 掛金と加入口数

- ①掛金は半年払いで1口6,000円です。(制度運営費1%を含んでいます。)
- ②加入口数は最低5口、最高50口で、両方のコースに加入できます。
- ③掛金の払込みは、満65歳に達する日の属する月分までです。
- ④掛金の納付は口座振替で、年2回、加入者の指定する口座から自動振替します。

5 増・減口と払込停止

加入口数の増口・減口ができます。

減口は、両方のコースとも原則として5口を下回ることにはできませんが、自由選択コースに限っては、一定の事由によって全部を減口することができます。

また、増口・減口の時期は、年2回加入応当日です。

6 年金の支給開始年齢

- ①支給開始年齢は満65歳です。
- ②平成15年4月以前に加入いただいた方の支給開始年齢は満60歳又は満65歳の二種類です。

7 給付の種類

①基本年金

ア) 10年確定年金(3%逡増型、定額型、5年前厚型)

加入者の生死にかかわらず10年間に限り年金が支払われます。

イ) 10年保証終身年金(3%逡増型、定額型)

10年間の保証期間中は、加入者の生死にかかわらず年金が支払われます。また、保険期間中に一時金での受取りを希望された場合には、残余期間に対応する一時金が支払われ、保証期間経過後に加入者が生存されているときは、年金の支払いが再開されます。

②中途脱退年金

加入者が加入期間等の一定条件を満たせば、年金の支払いを受け取れます。

③遺族一時金

掛金払込期間中に加入者が死亡した場合、死亡時に積立金をお支払いします。

④脱退一時金

加入者が死亡以外の事由で脱退した場合、脱退時の積立金をお支払いします。



平成24年春の叙勲伝達式・褒章伝達式

総務省消防庁

◇ 春の叙勲（消防関係）

平成24年6月1日（金）、ニッショーホールにおいて、平成24年春の叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した消防関係者の方々です。

瑞宝中綬章	33名
旭日小綬章	1名
瑞宝双光章	100名
瑞宝単光章	480名

◇ 春の褒章（消防関係）

平成24年6月6日（水）、スクール麹町において、平成24年春の褒章（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々で紅綬褒章は、災害活動等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した方々、黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに業界の発展に大き

く寄与した方々、藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した方々です。

紅綬褒章	8名
黄綬褒章	7名
藍綬褒章	72名

◇ 第18回危険業務従事者叙勲（消防関係）

平成24年5月30日（水）、日本青年館大ホールにおいて、第18回危険業務従事者叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受賞された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した方々です。

瑞宝双光章	380名
瑞宝単光章	240名

平成24年春の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 小	北 海 道	元 札幌市 消防正監	近 江 弘 治 (74)	瑞 双	北 海 道	元 遠軽地区広域組合 遠軽町生田原消防 団 団長	福 家 勝 (75)
瑞 小	北 海 道	元 帯広市 消防正監	大 井 厚 志 (70)	瑞 双	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合俱知安消防団 団長	藤 本 哲 (73)
瑞 小	北 海 道	元 札幌市 消防正監	釜 谷 誠 二 (73)	瑞 双	北 海 道	元 紋別地区消防組合 興部消防団 団長	藤 本 藤 哉 (76)
瑞 双	北 海 道	元 富良野地区消防組 合南富良野消防団 団長	東 雅 雪 (76)	瑞 双	北 海 道	元 胆振東部消防組合 安平消防団 副団長	眞 鍋 高 一 (74)
瑞 双	北 海 道	元 北見地区消防組合 北見消防団 団長	飯 田 安 藏 (76)	瑞 双	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合神恵内消防 団 団長	三 浦 正 勝 (75)
瑞 双	北 海 道	元 北十勝消防事務組 合音更消防団 団長	大 井 久 夫 (75)	瑞 双	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合留寿都消防団 団長	宮 武 光 夫 (73)
瑞 双	北 海 道	元 檜山広域行政組合 上ノ国町消防団 団長	草 間 真 一 (70)	瑞 単	北 海 道	元 千歳市消防団 副団長	岩 本 信 二 (71)
瑞 双	北 海 道	元 砂川地区広域消防 組合砂川消防団 団長	嶋 塚 弘 (81)	瑞 単	北 海 道	元 留萌消防組合留萌 消防団 団長	岩 谷 富 雄 (75)
瑞 双	北 海 道	元 西胆振消防組合豊 浦消防団 団長	進 藤 柱 信 (72)	瑞 単	北 海 道	元 札幌市南消防団 団長	大 磯 英 太 郎 (75)
瑞 双	北 海 道	元 斜里地区消防組合 小清水消防団 団長	高 嶋 寛 (77)	瑞 単	北 海 道	元 南宗谷消防組合浜 頓別消防団 分団長	大 谷 又 由 (81)
瑞 双	北 海 道	元 札幌市厚別消防団 団長	堂 佛 榮 一 (75)	瑞 単	北 海 道	元 小樽市消防団 分団長	岡 部 信 之 (71)
瑞 双	北 海 道	元 檜山広域行政組合 江差町消防団 団長	中 野 弘 一 (70)	瑞 単	北 海 道	元 石狩北部地区消防 事務組合石狩消防 団 分団長	奥 寺 孝 一 郎 (74)
瑞 単	北 海 道	元 釧路北部消防事務 組合標茶消防団 副団長	梶 川 宏 (75)	瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合滝川消防 団 副分団長	林 和 彦 (73)
瑞 単	北 海 道	元 上川中部消防組合 鷹栖消防団 副団長	鹿 野 俊 夫 (74)	瑞 単	北 海 道	元 岩見沢地区消防事 務組合岩見沢消防 団 団長	平 木 忠 男 (75)
瑞 単	北 海 道	元 帯広市川西消防団 分団長	神 田 幸 作 (82)	瑞 単	北 海 道	元 渡島西部広域事務 組合松前消防団 副団長	藤 田 功 (72)
瑞 単	北 海 道	元 赤平市消防団 副団長	栗 林 貢 (79)	瑞 単	北 海 道	元 函館市函館消防団 団長	藤 本 泰 好 (70)
瑞 単	北 海 道	元 網走地区消防組合 女満別消防団 副団長	小 面 正 隆 (86)	瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合標津消防団 副団長	古 瀬 幹 士 (71)
瑞 単	北 海 道	元 上川北部消防事務 組合中川消防団 団長	佐々木 修 三 (73)	瑞 単	北 海 道	元 南空知消防組合長 沼消防団 副団長	松 嶋 隆 敏 (74)
瑞 単	北 海 道	元 日高中部消防組合 静内消防団 分団長	佐 藤 孝 治 (77)	瑞 単	北 海 道	元 北留萌消防組合焼 尻消防団 団長	村 井 幸 雄 (73)
瑞 単	北 海 道	元 江別市消防団 分団長	白 旗 克 彦 (72)	瑞 単	北 海 道	元 日高東部消防組合 えりも町消防団 副分団長	村 中 直 市 (77)
瑞 単	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合島牧消防団 副分団長	鈴 木 昭 治 (80)	瑞 単	北 海 道	元 池北三町行政事務 組合本別消防団 分団長	森 原 耕 一 (78)
瑞 単	北 海 道	元 北広島市消防団 団長	谷 口 正 照 (74)	瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合羅臼消防団 副団長	安 澤 康 彦 (72)
瑞 単	北 海 道	元 砂川地区広域消防 組合砂川消防団 副団長	中 村 誠 司 (75)	瑞 単	北 海 道	元 函館市消防団 副団長	山 下 信 雄 (73)
瑞 単	北 海 道	元 白老町消防団 分団長	野 本 紀 一 (71)	瑞 単	北 海 道	元 西十勝消防組合新 得消防団 副団長	渡 辺 貞 夫 (74)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	青 森 県	元 蟹田町消防団 団長	いし た たい いち (75)	瑞 単	青 森 県	元 森田村消防団 分団長	なか 村 明 弘 (75)
瑞 双	青 森 県	元 十和田市消防団 団長	さくら た まさ あり (70)	瑞 単	青 森 県	元 深浦町消防団 副団長	ふく 福 沢 小 一 (72)
瑞 単	青 森 県	元 板柳町消防団 分団長	あら い たかし (74)	瑞 単	青 森 県	元 三戸町消防団 副団長	まつ 松 原 正 悦 (71)
瑞 単	青 森 県	元 黒石市消防団 団長	いい 飯 塚 じゅう 一 (72)	瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 副団長	みづ 溝 江 弘 利 (70)
瑞 単	青 森 県	元 天間林村消防団 分団長	か 加 賀 武 男 (75)	瑞 単	青 森 県	元 五所川原市消防団 分団長	やま 山 形 たけ 忠 衛 (75)
瑞 単	青 森 県	元 六戸町消防団 副団長	かね 崎 福 栄 (71)	瑞 単	青 森 県	元 大畑町消防団 分団長	や 矢 本 徳 治 (74)
瑞 単	青 森 県	元 横浜町消防団 分団長	さか 坂 下 義 弘 (74)	瑞 双	岩 手 県	元 紫波町消防団 団長	あお 大 沼 秀 一 (76)
瑞 単	青 森 県	元 五戸町消防団 副団長	ささ き 幸 男 (71)	瑞 双	岩 手 県	元 金ヶ崎町消防団 団長	こ の 野 寺 嘉 人 (68)
瑞 単	青 森 県	元 名川町消防団 副団長	す 砂 葉 民 男 (73)	瑞 双	岩 手 県	元 花巻市石鳥谷消防団 団長	こ 小 原 一 之 (71)
瑞 単	青 森 県	元 岩木町消防団 団長	たか 高 木 忠 美 (74)	瑞 双	岩 手 県	元 奥州市衣川区消防団 団長	さ さ 佐 々 木 金 男 (69)
瑞 単	青 森 県	元 青森市消防団 分団長	たけ 武 内 喜 兵 衛 (74)	瑞 双	岩 手 県	元 矢巾町消防団 副団長	たか 高 橋 健 一 (70)
瑞 単	青 森 県	元 脇野沢村消防団 副団長	たけ 竹 本 つよし 強 (70)	瑞 双	岩 手 県	元 雫石町消防団 団長	まつ 松 木 壽 司 (73)

瑞 単	岩 手 県	元 北上市消防団 副団長	いい 飯 盛 ひろ 宏 (82)	瑞 単	岩 手 県	元 軽米町消防団 分団長	なか 中 里 辰 見 (79)
瑞 単	岩 手 県	元 遠野市消防団 副団長	いし 石 関 寧 彦 (77)	瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	ふじ 藤 村 斌 一 (80)
瑞 単	岩 手 県	元 藤沢町消防団 分団長	おい 及 川 征 紀 (70)	瑞 単	岩 手 県	元 松尾村消防団 副団長	ふる 古 川 弥 志 (77)
瑞 単	岩 手 県	元 一戸町消防団 副団長	お の 小 野 寺 昭 (70)	瑞 単	岩 手 県	元 宮古市消防団 分団長	まつ 松 谷 信 雄 (72)
瑞 単	岩 手 県	元 沢内村消防団 副団長	か 加 藤 博 市 (76)	瑞 単	岩 手 県	元 岩手町消防団 副団長	みや 宮 田 和 義 (68)
瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 分団長	かね 兼 田 勲 (81)	瑞 双	宮 城 県	元 利府町消防団 団長	お 小 幡 富 雄 (75)
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 分団長	かめ 亀 卦 川 勝 夫 (74)	瑞 単	宮 城 県	元 女川町消防団 分団長	あ 阿 波 仁 (79)
瑞 単	岩 手 県	元 二戸市消防団 分団長	く 久 保 田 祐 藏 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 塩竈市浦戸消防団 団長	う 内 海 貞 男 (71)
瑞 単	岩 手 県	元 陸前高田市消防団 副団長	くま 熊 谷 嘉 一 (75)	瑞 単	宮 城 県	元 松山町消防団 副分団長	えん 遠 藤 清 郎 (84)
瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 分団長	さ さ 佐 々 木 廣 司 (82)	瑞 単	宮 城 県	元 本吉町消防団 分団長	お 小 野 賢 一 (75)
瑞 単	岩 手 県	元 大槌町消防団 分団長	さ さ 佐 々 木 大 一 郎 (68)	瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 副団長	か 川 田 善 男 (71)
瑞 単	岩 手 県	元 種市町消防団 分団長	たか 高 屋 敷 優 (76)	瑞 単	宮 城 県	元 栗駒町消防団 分団長	き 木 村 昭 一 (80)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	宮 城 県	元 石巻市石巻消防団 副団長	後 藤 嘉 男 (71)	瑞 単	宮 城 県	元 唐桑町消防団 分団長	千 葉 賢 貢 (82)
瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市消防団 分団長	小 松 克 朗 (81)	瑞 単	宮 城 県	元 東松島市消防団 副団長	土 井 敏 暉 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 石巻市雄勝消防団 団長	小 松 道 男 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 泉市消防団 分団長	髙 田 昭 夫 (83)
瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	佐々木 章 一 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 角田市消防団 分団長	引 地 信 一 (81)
瑞 単	宮 城 県	元 北上町消防団 団長	佐々木 敏 行 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 矢本町消防団 副団長	門 馬 つかさ (78)
瑞 単	宮 城 県	元 登米市米山町消防団 副団長	佐 藤 榮 一 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 山元町消防団 団長	大 和 武 房 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	佐 藤 勝 信 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 岩出山町消防団 分団長	渡 邊 敏 雄 (84)
瑞 単	宮 城 県	元 山元町消防団 副団長	佐 藤 幸 徳 (75)	瑞 双	秋 田 県	元 大仙市消防団 団長	鈴 木 正 雄 (71)
瑞 単	宮 城 県	元 蔵王町消防団 団長	佐 藤 孝 孝 (72)	瑞 双	秋 田 県	元 八郎潟町消防団 団長	村 井 昇 昇 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市北消防団 副団長	六 戸 孝 一 (82)	瑞 単	秋 田 県	元 平鹿町消防団 副団長	浅倉 與右衛門 (73)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市泉消防団 副団長	進 藤 昭 (78)	瑞 単	秋 田 県	元 藤里町消防団 分団長	淡 路 弘 弘 (75)
瑞 単	宮 城 県	元 大和町消防団 分団長	高 崎 英 一 (79)	瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 分団長	石 塚 兼 松 (82)

瑞 単	秋 田 県	元 河辺町消防団 分団長	稲 垣 辰 治 (81)	瑞 単	秋 田 県	元 上小阿仁村消防団 分団長	武 石 富 男 (82)
瑞 単	秋 田 県	元 雄物川町消防団 分団長	江 戸 實 (74)	瑞 単	秋 田 県	元 能代市消防団 分団長	原 田 正 彦 (75)
瑞 単	秋 田 県	元 能代市消防団 分団長	鎌 田 新 一 (76)	瑞 単	秋 田 県	元 横手市横手消防団 副団長	藤 谷 正 作 (73)
瑞 単	秋 田 県	元 鳥海町消防団 副団長	菊 地 誠 市 (70)	瑞 単	秋 田 県	元 田代町消防団 分団長	松 田 邦 男 (76)
瑞 単	秋 田 県	元 稲川町消防団 副団長	後 藤 勉 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 美郷町消防団 副団長	三 浦 祐 孝 (72)
瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 団長	佐々木 正 孝 (70)	瑞 単	秋 田 県	元 角館町消防団 副団長	茂 木 伊 一郎 (78)
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 副団長	佐々木 洋 一 (78)	瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	吉 野 正 正 (79)
瑞 単	秋 田 県	元 南外村消防団 分団長	清 水 要 (78)	瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	渡 部 辰 己 (83)
瑞 単	秋 田 県	元 湯沢市消防団 副団長	杉 助左衛門 (74)	瑞 双	山 形 県	元 真室川町消防団 団長	田 中 俊 久 (74)
瑞 単	秋 田 県	元 由利本荘市消防団 副団長	須 藤 紘 之 (70)	瑞 単	山 形 県	元 寒河江市消防団 団長	五十嵐 巖 (69)
瑞 単	秋 田 県	元 雄勝町消防団 副団長	高 橋 勝 治 (79)	瑞 単	山 形 県	元 西川町消防団 副団長	板 坂 登 榮 (72)
瑞 単	秋 田 県	元 仙南村消防団 分団長	高 橋 光 栄 (76)	瑞 単	山 形 県	元 河北町消防団 分団長	宇 野 一 男 (71)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	山 形 県	元 長井市消防団 団長	こん 野 喜 一 (65)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	岡 崎 毅 (74)
瑞 単	山 形 県	元 村山市消防団 分団長	さい 齋 藤 健 (67)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	小野瀬 道 夫 (72)
瑞 単	山 形 県	元 朝日村消防団 分団長	すけ 督 原 喜 一 (70)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	河 野 喜 市 (74)
瑞 単	山 形 県	元 尾花沢市消防団 副団長	たか 高 橋 昭 良 (71)	瑞 単	福 島 県	元 飯館村消防団 分団長	庄 司 勝 藏 (76)
瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 分団長	のぶ 信 坂 明 (71)	瑞 単	福 島 県	元 西会津町消防団 分団長	すず 鈴 木 洋 (68)
瑞 双	福 島 県	元 北塩原村消防団 団長	さか 酒 井 作 男 (71)	瑞 単	福 島 県	元 相馬市消防団 分団長	ただ 但 野 俊 彦 (74)
瑞 双	福 島 県	元 棚倉町消防団 団長	よし 吉 田 幸 雄 (65)	瑞 単	福 島 県	元 下郷町消防団 分団長	たま 玉 川 衛 (77)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	あ 阿 部 誠 吉 (74)	瑞 単	福 島 県	元 伊達市消防団 分団長	なが 長 澤 博 (68)
瑞 単	福 島 県	元 喜多方市消防団 分団長	あ 安 部 俊 雄 (74)	瑞 単	福 島 県	元 伊南村消防団 分団長	ひら 平 野 源 太 郎 (78)
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	あり 有 沼 正 喜 (65)	瑞 単	福 島 県	元 南会津町消防団 副団長	ひろ 廣 野 七 雄 (70)
瑞 単	福 島 県	元 保原町消防団 分団長	いし 石 井 福 男 (78)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	やま 山 崎 弘 之 (76)
瑞 単	福 島 県	元 熱塩加納村消防団 分団長	おお 大 野 忠 誠 (77)	瑞 小	茨 城 県	元 茨城西南地方広域 市町村圏事務組合 消防正監	なが 永 岡 薫 (70)
瑞 小	茨 城 県	元 鹿島南部地区消防 事務組合 消防正監	ふじ 藤 城 二 郎 (70)	瑞 単	茨 城 県	元 水戸市消防団 分団長	ふた 二 川 定 之 (72)
瑞 双	茨 城 県	元 筑西市消防団 団長	さい 齊 藤 喜 雄 (70)	瑞 双	栃 木 県	元 黒羽町消防団 団長	わた 渡 邊 脩 司 (70)
瑞 双	茨 城 県	元 八千代町消防団 団長	さわ 沢 木 利 夫 (74)	瑞 単	栃 木 県	元 宇都宮市消防団 分団長	おお 大 和 仁 (79)
瑞 単	茨 城 県	元 日立市消防団 副団長	あらし 嵐 田 亨 (71)	瑞 単	栃 木 県	元 那須烏山市烏山消防 団副団長	くに 國 井 昌 美 (68)
瑞 単	茨 城 県	元 茨城町消防団 副団長	え 江 幡 衛 (66)	瑞 単	栃 木 県	元 栃木市消防団 団長	しま 島 田 吉 益 (70)
瑞 単	茨 城 県	元 城里町桂消防団 団長	か 加 藤 木 要 (71)	瑞 単	栃 木 県	元 矢板市消防団 副団長	はら 関 沢 明 (68)
瑞 単	茨 城 県	元 常陸太田市消防団 副団長	あき 興 野 勉 (70)	瑞 単	栃 木 県	元 西那須野町消防団 団長	でら 寺 崎 瑛 (69)
瑞 単	茨 城 県	元 つくば市桜消防団 副団長	こく 國 府 田 昭 (81)	瑞 単	栃 木 県	元 足利市消防団 分団長	はや 早 川 信 行 (72)
瑞 単	茨 城 県	元 美野里町消防団 副団長	さくら 櫻 井 誠 (73)	瑞 単	栃 木 県	元 藤原町消防団 分団長	ふく 福 田 巨 可 (79)
瑞 単	茨 城 県	元 常陸大宮市消防団 副団長	なが 長 山 登 志 治 (69)	瑞 単	群 馬 県	元 桐生市消防団 分団長	こ 小 野 善 三 郎 (74)
瑞 単	茨 城 県	元 稲敷市新利根消防 団副団長	はな 花 原 敏 正 (65)	瑞 単	群 馬 県	元 中里村消防団 団長	かね 金 澤 廣 光 (64)
瑞 単	茨 城 県	元 取手市消防団 副団長	は 羽 富 正 二 (65)	瑞 単	群 馬 県	元 前橋市消防団 副団長	たけ 竹 内 弘 光 (67)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	群 馬 県	元 神流町消防団 副団長	みや宮 崎 崇 (64)	瑞 単	埼 玉 県	元 本庄市消防団 団長	ふじ藤 井 仁 (64)
瑞 小	埼 玉 県	元 所沢市 消防正監	おおお大 館 靖 治 (75)	瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷市消防団 分団長	よし吉 田 正 一 (70)
瑞 双	埼 玉 県	元 両神村消防団 団長	くろ黒 沢 明 治 (78)	瑞 小	千 葉 県	元 市川市 消防正監	いし石 井 勇 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 戸田市消防団 団長	おおお大 沼 一 哉 (70)	瑞 小	千 葉 県	元 千葉市 消防司監	ささ佐 藤 彰 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 さいたま市消防団 団長	かね金 子 悦 三 (68)	瑞 双	千 葉 県	元 栄町消防団 団長	いし石 井 清 輝 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 川口市消防団 副団長	かわ川 上 孝 (70)	瑞 双	千 葉 県	元 松尾町消防団 副団長	ささ佐 瀬 孝 一 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 幸手市消防団 団長	こもり小 森 谷 進 治 (77)	瑞 双	千 葉 県	元 安房都市広城市町 村圏事務組合 消防正監	かね鈴 木 正 弘 (76)
瑞 単	埼 玉 県	元 八潮市消防団 団長	しの篠 木 正 義 (67)	瑞 双	千 葉 県	元 市原市消防団 団長	とと土 岐 忠 行 (67)
瑞 単	埼 玉 県	元 杉戸町消防団 団長	たけ武 井 正 夫 (71)	瑞 単	千 葉 県	元 栄町消防団 副団長	い伊 藤 秀 一 (68)
瑞 単	埼 玉 県	元 行田市消防団 団長	た田 代 昌 克 (72)	瑞 単	千 葉 県	元 大網白里町消防団 団長	たか高 橋 正 幸 (65)
瑞 単	埼 玉 県	元 大滝村消防団 副分団長	ち千 島 恒 夫 (80)	瑞 単	千 葉 県	元 習志野市消防団 団長	みや三 代 川 馨 (65)
瑞 単	埼 玉 県	元 越谷市消防団 分団長	はま濱 野 章 夫 (73)	瑞 単	千 葉 県	元 香取広城市町村圏 事務組合香取市消 防団 団長	むら村 田 勇 (65)

瑞 単	千 葉 県	元 市川市消防団 副団長	ゆ湯 浅 重 男 (77)	瑞 単	東 京 都	元 本所消防団 副分団長	おおお大 下 建 吉 (75)
瑞 単	千 葉 県	元 野田市消防団 副団長	よし吉 岡 信 彰 (75)	瑞 単	東 京 都	元 杉並消防団 副団長	おおお大 野 義 豊 (72)
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	ここ小 林 茂 昭 (70)	瑞 単	東 京 都	元 新宿消防団 副団長	おお尾 形 金 司 (71)
瑞 双	東 京 都	元 臨港消防団 団長	い家 田 孝 雄 (70)	瑞 単	東 京 都	元 王子消防団 副団長	お小 澤 源 二 (69)
瑞 双	東 京 都	元 小岩消防団 団長	こ小 島 務 (69)	瑞 単	東 京 都	元 大森消防団 分団長	おち落 合 公 明 (76)
瑞 双	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	たか高 橋 太 (70)	瑞 単	東 京 都	元 浅草消防団 分団長	かか梶 山 昌 美 (72)
瑞 双	東 京 都	元 深川消防団 団長	ま増 茂 洋之進 (68)	瑞 単	東 京 都	元 芝消防団 副団長	しの篠 啓 二 郎 (71)
瑞 双	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	や山 崎 文 徳 (70)	瑞 単	東 京 都	元 中野消防団 分団長	や関 根 一 郎 (75)
瑞 単	東 京 都	元 羽村市消防団 団長	あき秋 山 弘 (71)	瑞 単	東 京 都	元 田園調布消防団 分団長	たけ竹 繩 省 三 (76)
瑞 単	東 京 都	元 足立消防団 分団長	あめ雨 間 秀 浩 (74)	瑞 単	東 京 都	元 玉川消防団 副団長	なが長 崎 裕 次 (71)
瑞 単	東 京 都	元 本郷消防団 副団長	いし石 塚 皓 司 (71)	瑞 単	東 京 都	元 向島消防団 副団長	は長 谷 川 年 旦 (72)
瑞 単	東 京 都	元 江戸川消防団 分団長	い伊 藤 徳 藏 (72)	瑞 単	東 京 都	元 赤羽消防団 副団長	まつ松 本 光 司 (72)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	東 京 都	元 赤坂消防団 分団長	みづ た 田 富 則 (75)	瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市中原消防団 分団長	くろ た 田 幹 夫 (80)
瑞 単	東 京 都	元 四谷消防団 分団長	やなぎ た 枝 一 夫 (76)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市大岡消防団 分団長	すず き 木 敏 夫 (82)
瑞 単	東 京 都	元 渋谷消防団 副団長	やま ぐち まさ よし 能 (72)	瑞 単	神 奈 川 県	元 津久井町消防団 団長	たか い 井 栄 隆 (70)
瑞 単	東 京 都	元 荒川消防団 副団長	よし 吉 田 博 (73)	瑞 単	神 奈 川 県	元 藤沢市消防団 分団長	たか 高 崎 晃 (74)
瑞 単	東 京 都	元 尾久消防団 分団長	わ 和 田 知 義 (75)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市磯子消防団 団長	た 田 辺 重 治 (76)
瑞 小	神 奈 川 県	元 川崎市 消防正監	こ ぼやし かず 也 (74)	瑞 単	神 奈 川 県	元 藤野町消防団 団長	なか ち 口 廣 利 (83)
瑞 小	神 奈 川 県	元 横須賀市 消防正監	すず き 木 博 (70)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市旭消防団 副団長	にい 新 川 安 雄 (74)
瑞 小	神 奈 川 県	元 横浜市 消防司監	にし 西 村 浩 (70)	瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市幸消防団 分団長	はや 早 川 久 榮 (76)
瑞 双	神 奈 川 県	元 箱根町消防団 団長	の 野 崎 茂 則 (70)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市神奈川消防団 分団長	よし 藤 巻 七之助 (81)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横須賀市消防団 副団長	いし 石 渡 忠 雄 (74)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市金沢消防団 分団長	やなぎ 柳 下 喜久男 (76)
瑞 単	神 奈 川 県	元 鎌倉市消防団 分団長	かね 金 子 兼 久 (74)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市保土ヶ谷消防団 分団長	たけ 保 田 光 義 (82)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市山手消防団 分団長	かみ 神 定 功 (79)	瑞 双	新 潟 県	元 南魚沼市消防団 団長	とよ 富 井 義 雄 (69)

瑞 双	新 潟 県	元 新潟市 消防正監	はい 生 野 政 夫 (76)	瑞 単	新 潟 県	元 長岡市長岡消防団 副団長	とも 友 野 博 (69)
瑞 双	新 潟 県	元 糸魚川市青海消防団 団長	やま 山 崎 憲 彰 (71)	瑞 単	新 潟 県	元 寺泊町消防団 団長	なり 成 田 信 一 (72)
瑞 単	新 潟 県	元 加茂市消防団 団長	あん 安 中 弘 (74)	瑞 単	新 潟 県	元 相川町消防団 団長	はら 原 瀧 藏 (82)
瑞 単	新 潟 県	元 中条町消防団 副団長	い 五十嵐 文 秋 (70)	瑞 単	新 潟 県	元 新潟市西消防団 団長	はら 原 田 忍 (69)
瑞 単	新 潟 県	元 妙高市消防団 副団長	うえ 上 野 幸 男 (65)	瑞 単	新 潟 県	元 長岡市越路消防団 団長	よし 吉 岡 幸 一 (65)
瑞 単	新 潟 県	元 新津市消防団 副団長	おお 大 島 省 市 (70)	瑞 双	富 山 県	元 福岡町消防団 団長	うえ 上 田 勲 (67)
瑞 単	新 潟 県	元 田上町消防団 団長	お 小 澤 克 榮 (67)	瑞 双	富 山 県	元 南砺市消防団 副団長	たけ 竹 部 謙 一 (70)
瑞 単	新 潟 県	元 五泉市消防団 副団長	くろ 黒 井 睦 男 (67)	瑞 単	富 山 県	元 滑川市消防団 団長	いな 稲 崎 忍 (69)
瑞 単	新 潟 県	元 神林村消防団 団長	さか 坂 上 喜 雄 (65)	瑞 単	富 山 県	元 高岡市消防団 分団長	え 江 湊 司 郎 (75)
瑞 単	新 潟 県	元 小千谷市消防団 分団長	すず き 木 秀 夫 (79)	瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	お 岡 村 猛 (69)
瑞 単	新 潟 県	元 柏崎市消防団 副団長	たか 高 橋 裕 義 (68)	瑞 単	富 山 県	元 射水市消防団 副分団長	すぎ やま 山 義 則 (79)
瑞 単	新 潟 県	元 三条市消防団 副団長	たな 棚 橋 繁 (68)	瑞 単	富 山 県	元 大山町消防団 団長	せ 瀬 川 忠 弘 (73)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	富 山 県	元 高岡市伏木消防団 副分団長	鳥 山 辰 雄 (84)	瑞 単	福 井 県	元 敦賀美方消防組合 敦賀消防団 団長	保 花 政 春 (68)
瑞 単	富 山 県	元 入善町消防団 分団長	野 口 美津夫 (74)	瑞 単	山 梨 県	元 甲府市消防団 副団長	角 田 源 太 郎 (68)
瑞 小	石 川 県	元 金沢市 消防正監	川 北 優 (70)	瑞 単	山 梨 県	元 三富村消防団 団長	日 原 吉 白 出 (74)
瑞 双	石 川 県	元 金沢市第三消防団 団長	粟 森 政 範 (70)	瑞 小	長 野 県	元 南信州広域連合 消防正監	中 平 勝 (70)
瑞 単	石 川 県	元 加賀市消防団 分団長	坂 口 健 (74)	瑞 単	長 野 県	元 戸隠村消防団 団長	塚 田 廣 実 (63)
瑞 単	石 川 県	元 鳥越村消防団 団長	中 田 榮 次 (74)	瑞 単	長 野 県	元 松本市消防団 団長	瀨 眞 (60)
瑞 単	石 川 県	元 珠洲市消防団 副団長	瓶 子 真 夫 (73)	瑞 単	長 野 県	元 平谷村消防団 団長	早 川 重 太 郎 (79)
瑞 単	石 川 県	元 志賀町消防団 団長	寶 達 清 一 (70)	瑞 単	長 野 県	元 上田市消防団 団長	矢 島 康 夫 (60)
瑞 双	福 井 県	元 鯖江・丹生消防組 合鯖江消防団 団長	田 村 光 雄 (77)	瑞 単	長 野 県	元 木曾福島町消防団 団長	山 下 岩 男 (63)
瑞 単	福 井 県	元 福井地区消防組合 福井地区消防団 副分団長	大 橋 秋 孝 (79)	瑞 小	岐 阜 県	元 可茂消防事務組合 消防正監	渡 邊 秀 昭 (70)
瑞 単	福 井 県	元 嶺北消防組合春江 消防団 分団長	木 下 進 (78)	瑞 双	岐 阜 県	元 高山市消防団 副団長	上 田 正 巳 (68)
瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合南越 前消防団 副団長	野 崎 和 彦 (70)	瑞 双	岐 阜 県	元 下呂市金山消防団 団長	馬 場 武 史 (74)

瑞 単	岐 阜 県	元 神岡町消防団 副団長	荒 城 喜 一 (71)	瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 団長	鈴 木 勝 男 (69)
瑞 単	岐 阜 県	元 掛斐川町春日消防 団 団長	市 川 守 (64)	瑞 小	愛 知 県	元 名古屋市 消防司監	安 藤 重 治 (72)
瑞 単	岐 阜 県	元 垂井町消防団 副団長	岩 崎 秋 夫 (67)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市松原消防 団 団長	浅 野 成 正 (75)
瑞 単	岐 阜 県	元 中津川市消防団 副団長	河 尻 信 利 (64)	瑞 単	愛 知 県	元 日進町消防団 団長	石 川 富 二 (82)
瑞 単	岐 阜 県	元 郡上市消防団 副団長	小 池 忠 (64)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市井戸田消 防団 団長	伊 藤 幸 二 (73)
瑞 単	岐 阜 県	元 大垣市大垣消防団 副団長	山 中 源 一 (64)	瑞 単	愛 知 県	元 小牧市消防団 団長	小 川 紀 雄 (71)
瑞 単	静 岡 県	元 大井川町消防団 団長	青 島 勝 夫 (69)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市高藏消防 団 団長	西 尾 明 (76)
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 副団長	秋 山 勝 宏 (69)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市広見消防 団 団長	早 田 耕 一 (70)
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市静岡消防団 分団長	小 柳 津 精 市 (72)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市自由ヶ丘 消防団 団長	松 岡 高 保 (71)
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	後 藤 正 明 (70)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市葵消防団 団長	渡 邊 日 出 雄 (77)
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市清水消防団 団長	齋 藤 銀 一 (73)	瑞 双	三 重 県	元 志摩市消防団 団長	谷 口 吉 宏 (67)
瑞 単	静 岡 県	元 富士川町消防団 団長	佐 野 臣 弘 (70)	瑞 双	三 重 県	元 紀宝町消防団 団長	吉 川 由 夫 (78)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	三 重 県	元 松阪市消防団 副団長	岡 田 浩 昌 (71)	瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	尾 島 利 一 (76)
瑞 単	三 重 県	元 桑名市消防団 分団長	小 川 光 夫 (68)	瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防司監	原 田 一 郎 (70)
瑞 単	三 重 県	元 鳥羽市消防団 団長	小田谷 克 弥 (66)	瑞 双	京 都 府	元 大江町消防団 団長	西 山 義 一 (81)
瑞 単	三 重 県	元 四日市市消防団 分団長	藤 田 清 博 (73)	瑞 双	京 都 府	元 舞鶴市朝来消防団 団長	藤 村 和 幸 (70)
瑞 双	滋 賀 県	元 守山市消防団 団長	石 田 喜 一 郎 (67)	瑞 双	京 都 府	元 京都市上京消防団 団長	亘 重 好 (70)
瑞 双	滋 賀 県	元 東近江行政組合 消防正監	宇 田 泰 一 (70)	瑞 単	京 都 府	元 宇治市消防団 副団長	太 田 五 幸 (64)
瑞 双	滋 賀 県	元 愛荘町消防団 団長	岡 部 隆 (71)	瑞 単	京 都 府	元 精華町消防団 団長	清 水 誠 (64)
瑞 双	滋 賀 県	元 甲良町消防団 団長	藤 原 勝 義 (68)	瑞 単	京 都 府	元 京都市山科消防団 分団長	竹 中 俊 之 (75)
瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 副団長	大 塚 勲 (68)	瑞 単	京 都 府	元 京都市下京消防団 分団長	田 邊 良 雄 (83)
瑞 単	滋 賀 県	元 彦根市消防団 団長	岸 本 榮 三 (68)	瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	中 坊 明 博 (87)
瑞 単	滋 賀 県	元 余呉消防団 団長	堀 江 榮 治 (65)	瑞 単	京 都 府	元 京都市伏見消防団 分団長	福 井 國 夫 (77)
瑞 単	滋 賀 県	元 草津市消防団 団長	横 江 博 (65)	瑞 単	京 都 府	元 京都市伏見消防団 副団長	横 須 賀 清 (79)

瑞 小	大 阪 府	元 大阪市 消防正監	五 味 淳 (70)	瑞 小	兵 庫 県	元 宝塚市 消防正監	古 村 宏 太 郎 (70)
瑞 小	大 阪 府	元 茨木市 消防正監	才 脇 芳 喜 (73)	瑞 双	兵 庫 県	元 宝塚市消防団 団長	古 東 宏 之 (71)
瑞 小	大 阪 府	元 高槻市 消防正監	橋 本 輝 男 (72)	瑞 双	兵 庫 県	元 豊岡市豊岡消防団 団長	西 垣 豪 太 郎 (73)
瑞 双	大 阪 府	元 藤井寺市消防団 団長	山 中 勇 (78)	瑞 双	兵 庫 県	元 香美町消防団 団長	本 城 繁 信 (71)
瑞 単	大 阪 府	元 島本町消防団 副団長	河 上 圭 秀 (64)	瑞 双	兵 庫 県	元 神戸市西消防団 団長	安 尾 勝 (70)
瑞 単	大 阪 府	元 富田林市消防団 分団長	木 谷 伸 也 (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 赤穂市消防団 分団長	粟 井 唯 司 (80)
瑞 単	大 阪 府	元 交野市消防団 団長	橋 内 誠 治 (64)	瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路東消防 分団長	石 井 勝 美 (74)
瑞 単	大 阪 府	元 八尾市消防団 副団長	齋 当 滋 (69)	瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 副団長	上 田 時 夫 (66)
瑞 単	大 阪 府	元 吹田市消防団 分団長	杉 林 巖 (77)	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	江 川 隆 駿 (81)
瑞 単	大 阪 府	元 茨木市消防団 分団長	松 尾 正 (76)	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	大 石 恒 夫 (80)
瑞 単	大 阪 府	元 松原市消防団 副団長	吉 田 努 (75)	瑞 単	兵 庫 県	元 洲本市消防団 副団長	殿 脇 修 (64)
瑞 小	兵 庫 県	元 宝塚市 消防正監	金 岡 信 重 (72)	瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 副団長	橋 本 春 樹 (80)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	ふる た きみ お 雄 (79)	瑞 単	奈 良 県	元 香芝市消防団 副団長	しやく ど まさ のり 教 (65)
瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	まよ だ たし み 美 (68)	瑞 単	奈 良 県	元 桜井市消防団 副団長	てる ぼやし ただし 正 (68)
瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 分団長	まつ した のり お 生 (64)	瑞 単	奈 良 県	元 奈良市消防団 副団長	なみ びら みゆる 稔 (71)
瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 副団長	みや とも かず お 男 (63)	瑞 単	奈 良 県	元 平群町消防団 団長	よし へん やす のり 典 (71)
瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市城崎消防団 副団長	わ だ たし お 男 (72)	瑞 単	奈 良 県	元 大和郡山市消防団 分団長	もり かつ のぶ 信 (81)
瑞 小	奈 良 県	元 生駒市消防団 団長	よし 野 しげる 茂 (76)	瑞 小	和 歌 山 県	元 和歌山市 消防正監	くろ だ よし ずみ 純 (70)
瑞 双	奈 良 県	元 山辺広域行政事務 組合田原本消防団 団長	かさ ぎ ぼ 逸 み 見 (77)	瑞 双	和 歌 山 県	元 由良町消防団 団長	た なか あつ み 美 (71)
瑞 双	奈 良 県	元 橿原市消防団 団長	い だ け 武 司 (70)	瑞 双	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 団長	てる した あつ み 美 (75)
瑞 単	奈 良 県	元 御所市消防団 分団長	うえ だ やす かず 一 (77)	瑞 単	和 歌 山 県	元 御坊市消防団 副団長	おけ ちか ひろし 博 (70)
瑞 単	奈 良 県	元 下市町消防団 団長	おか だ せい いち 一 (67)	瑞 単	和 歌 山 県	元 白浜町消防団 分団長	すず 木 あさひ 明 (73)
瑞 単	奈 良 県	元 宇陀市大宇陀消防 団 団長	かじ じ 徳 治 (65)	瑞 単	和 歌 山 県	元 かつらぎ町消防団 団長	た げん 敏 雄 (71)
瑞 単	奈 良 県	元 大淀町消防団 副団長	かき 原 教 彦 (76)	瑞 単	和 歌 山 県	元 海南市消防団 副団長	なみ にし 修 己 (64)

瑞 単	和 歌 山 県	元 新宮市消防団 副団長	な 越 利 輔 (72)	瑞 単	島 根 県	元 松江市消防団 副団長	いし かわ しゅう いち 一 (74)
瑞 単	和 歌 山 県	元 中辺路町消防団 副団長	な 須 健 男 (69)	瑞 単	島 根 県	元 出雲市多伎消防団 副団長	おか だ こう いち 一 (64)
瑞 単	和 歌 山 県	元 橋本市消防団 分団長	ふく ち 清 (72)	瑞 単	島 根 県	元 浜田市消防団 分団長	しも かね たか お 雄 (73)
瑞 単	和 歌 山 県	元 串本町消防団 団長	ます とも たつ ひこ 彦 (70)	瑞 単	島 根 県	元 益田市消防団 副団長	たか た きよ 榮 (72)
瑞 単	和 歌 山 県	元 有田川町消防団 副団長	や 本 いさむ 勇 (74)	瑞 単	島 根 県	元 津和野町消防団 副団長	ひろ なか きよし 清 (71)
瑞 単	鳥 取 県	元 中山町消防団 団長	あか かわ すずむ 進 (70)	瑞 単	島 根 県	元 安来市消防団 副団長	よし 藤 武 昭 (69)
瑞 単	鳥 取 県	元 三朝町消防団 副団長	おか 本 たけし 武 (74)	瑞 単	島 根 県	元 江津市消防団 分団長	むら だ じ りゅう 郎 (72)
瑞 単	鳥 取 県	元 琴浦町消防団 副団長	きし とも しげる 繁 (67)	瑞 単	島 根 県	元 海士町消防団 団長	やす だ まさ あき 昭 (78)
瑞 単	鳥 取 県	元 米子市消防団 分団長	やま の上 たけ 夫 (74)	瑞 小	岡 山 県	元 倉敷市 消防正監	はら だ よういちろう 洋一郎 (70)
瑞 小	島 根 県	元 松江地区広域行政 組合消防正監	まつ 松 尾 邦 明 (70)	瑞 双	岡 山 県	元 加茂川町消防団 団長	かわ ぼろ ひろ し 嗣 (74)
瑞 双	島 根 県	元 出雲市消防団 副団長	わ だ あき お 男 (73)	瑞 双	岡 山 県	元 備前市消防団 団長	こ ぼやし み 三喜 男 (70)
瑞 単	島 根 県	元 出雲市消防団 副団長	あん じき 嘉 浩 (65)	瑞 双	岡 山 県	元 岡山市消防団 団長	せの 妹 ひろ 行 (69)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	岡 山 県	元 吉備中央町消防団 副団長	草 地 之 治 (68)	瑞 双	広 島 県	元 坂町消防団 団長	車 地 高 徳 (71)
瑞 単	岡 山 県	元 高梁市消防団 副団長	近 藤 好 男 (65)	瑞 双	広 島 県	元 神辺町消防団 団長	小 林 剛 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 真庭市落合消防団 副団長	高 木 蒙 夫 (67)	瑞 単	広 島 県	元 湯来町消防団 副団長	泉 義 隆 (71)
瑞 単	岡 山 県	元 御津町消防団 団長	竹 原 友 三 (65)	瑞 単	広 島 県	元 内海町消防団 団長	小 川 信 雄 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	藤 原 政 廣 (65)	瑞 単	広 島 県	元 安芸津町消防団 副分団長	越 智 輝 博 (84)
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	政 安 二 郎 (68)	瑞 単	広 島 県	元 音戸町消防団 副団長	海 田 勝 之 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 邑久町消防団 分団長	松 本 土 雄 (71)	瑞 単	広 島 県	元 広島市東消防団 分団長	木 本 敏 俊 (83)
瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	三 老 勝 (68)	瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防団 分団長	桐 本 俊 之 (74)
瑞 単	岡 山 県	元 加茂川町消防団 団長	森 元 勇 (65)	瑞 単	広 島 県	元 佐伯町消防団 副分団長	兼 原 義 男 (77)
瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	守 山 周 茂 (67)	瑞 単	広 島 県	元 広島市西消防団 分団長	河 野 稔 雄 (75)
瑞 小	広 島 県	元 広島市 消防正監	白 井 晃 (70)	瑞 単	広 島 県	元 江田島市消防団 分団長	新 沖 和 夫 (73)
瑞 小	広 島 県	元 広島市 消防正監	渡 邊 新 一 (70)	瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	楠 本 泰 志 (75)

瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 分団長	高 間 恒 太 (74)	瑞 単	山 口 県	元 宇部市消防団 分団長	岡 崎 光 成 (76)
瑞 単	広 島 県	元 竹原市消防団 分団長	流 森 正 (75)	瑞 単	山 口 県	元 錦町消防団 分団長	岡 村 悦 男 (79)
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 分団長	羽 根 義 敏 (75)	瑞 単	山 口 県	元 平生町消防団 副分団長	金 岡 義 人 (79)
瑞 単	広 島 県	元 福山市消防団 副団長	藤 代 昭 治 (70)	瑞 単	山 口 県	元 宇部市消防団宇部 消防団 副団長	兼 廣 辰 彦 (71)
瑞 単	広 島 県	元 美土里町消防団 副分団長	増 田 一 美 (85)	瑞 単	山 口 県	元 柳井市消防団 分団長	清 重 一 男 (74)
瑞 単	広 島 県	元 大竹市消防団 分団長	安 井 義 己 (83)	瑞 単	山 口 県	元 鹿野町消防団 副団長	竹 本 富 士 夫 (77)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	弓 取 滋 知 (77)	瑞 単	山 口 県	元 阿知須町消防団 副団長	中 本 治 人 (79)
瑞 双	山 口 県	元 山陽小野田市消防団 団長	秋 本 昌 宏 (76)	瑞 単	山 口 県	元 下松市消防団 分団長	橋 本 宗 夫 (74)
瑞 単	山 口 県	元 平生町消防団 分団長	赤 道 良 雄 (70)	瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 副団長	藤 井 昌 展 (75)
瑞 単	山 口 県	元 山陽小野田市消防団 分団長	有 馬 武 人 (74)	瑞 単	山 口 県	元 下関市消防団 副団長	古 田 清 彦 (71)
瑞 単	山 口 県	元 防府市消防団 分団長	石 光 勇 三 (73)	瑞 単	山 口 県	元 むつみ村消防団 分団長	松 中 豊 (80)
瑞 単	山 口 県	元 阿武町消防団 分団長	池 田 梅 治 (81)	瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 分団長	山 本 晃 (75)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	山 口 県	元 美祢市消防団 分団長	やまもと かね 兼 雄 (79)	瑞 双	香 川 県	元 小豆島町消防団 団長	にし ぐら いわ 西 口 岩 市 (64)
瑞 単	山 口 県	元 福栄村消防団 分団長	やまもと たく 卓 二 (79)	瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	おの さか よし たか 小野坂 義 賢 (74)
瑞 小	徳 島 県	元 徳島市 消防正監	やま ぐち かつ ひで 山口 勝 秀 (70)	瑞 単	香 川 県	元 坂出市消防団 団長	かじ へい さと め 梶 里 美 (66)
瑞 双	徳 島 県	元 美馬市消防団 団長	いわ ね かつ よし 岩 根 勝 義 (70)	瑞 単	香 川 県	元 高瀬町消防団 分団長	かた やま やす ひで 片 山 泰 秀 (76)
瑞 双	徳 島 県	元 坂野町消防団 団長	た なか みゆき 田 中 実 貴 (72)	瑞 単	香 川 県	元 香川町消防団 副団長	かわ まつ あき よし 川 松 秋 義 (82)
瑞 双	徳 島 県	元 阿波市消防団 団長	みや じま よし 三 宮 島 佳 三 (70)	瑞 単	香 川 県	元 さぬき市消防団 副団長	さ とう たけ 三 佐 藤 忠 三 (74)
瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 副団長	うえ た かつ ひさ 上 田 勝 久 (64)	瑞 単	香 川 県	元 丸亀市消防団 団長	とん た せつ 男 徳 田 哲 男 (75)
瑞 単	徳 島 県	元 鳴門市消防団 副団長	かつ だ かつ ひこ 勝 田 勝 彦 (66)	瑞 単	香 川 県	元 普通寺市消防団 分団長	のり かね さ ゆき 法 兼 佐 幸 (70)
瑞 単	徳 島 県	元 日和佐町消防団 副団長	き かつ 年 喜和田 年 (73)	瑞 単	香 川 県	元 宇多津町消防団 副団長	はな た けん いち 花 田 健 一 (79)
瑞 単	徳 島 県	元 阿波市消防団 副団長	たけ だ よし 則 武 田 義 則 (64)	瑞 単	香 川 県	元 多度津町消防団 副団長	みづ さき まさ よし 水 澤 正 義 (76)
瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 団長	はし とも 春 橋 本 宜 春 (66)	瑞 単	香 川 県	元 琴南町消防団 団長	かた と たか 春 湊 高 春 (68)
瑞 単	徳 島 県	元 美馬市消防団 副団長	はら 博 一 原 博 一 (71)	瑞 単	香 川 県	元 三豊市消防団 副団長	よこ ざか ひろ 幸 横 澤 廣 幸 (75)

瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	うえ まつ とき 定 上 松 時 定 (84)	瑞 双	高 知 県	元 高知市消防団 団長	おお の 富 至 雄 大 野 富 至 雄 (74)
瑞 単	愛 媛 県	元 広田村消防団 分団長	かど た 行 雄 門 田 行 雄 (77)	瑞 単	高 知 県	元 土佐清水市消防団 副団長	かみ はら まさ かず 岡 原 雅 一 (69)
瑞 単	愛 媛 県	元 新居浜市消防団 分団長	かわ はん 武 訓 川 端 武 訓 (71)	瑞 単	高 知 県	元 仁淀村消防団 団長	か とう き せい 加 藤 亀 生 (65)
瑞 単	愛 媛 県	元 瀬戸町消防団 団長	く せ 隆 博 久 世 隆 博 (64)	瑞 単	高 知 県	元 中芸広域連合安田 町消防団 副団長	きよ けい 夫 清 岡 東 洋 夫 (69)
瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 副団長	くさ とも 友 行 藏 本 友 行 (64)	瑞 単	高 知 県	元 芸西村消防団 副団長	こ まつ いわお 小 松 巖 一 (71)
瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 分団長	こ せり 男 小 寺 利 男 (82)	瑞 単	高 知 県	元 安芸市消防団 副団長	こ まつ ひで たか 小 松 秀 隆 (65)
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	こ にし 章 小 西 章 (64)	瑞 単	高 知 県	元 中芸広域連合馬路 村消防団 副分団長	にし やま はじめ 西 山 始 (74)
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	たる みづ 柳 太郎 垂 水 柳 太郎 (79)	瑞 単	高 知 県	元 中芸行政組合田野 町消防団 副団長	みなみ よし ひろ 南 好 弘 (74)
瑞 単	愛 媛 県	元 関前村消防団 団長	にい のぶ 順 一 新 延 順 一 (64)	瑞 単	高 知 県	元 佐賀町消防団 分団長	むら かみ たけち 村 上 武 千 代 (67)
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	ふじ いた たけ し 藤 板 武 士 (67)	瑞 単	高 知 県	元 中芸広域連合奈半 利町消防団 副団長	よし ざき けん 吉 崎 憲 (74)
瑞 単	愛 媛 県	元 今治市消防団 分団長	やま じ 利 彦 山 路 利 彦 (78)	瑞 小	福 岡 県	元 北九州市 消防司監	た しろ あき つぐ 田 代 昭 次 (70)
瑞 双	高 知 県	元 四万十市消防団 団長	うら た 実 浦 田 実 貴 (79)	瑞 双	福 岡 県	元 庄内町消防団 団長	あり みつ いさひ 有 光 勇 (70)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	福 岡 県	元 福岡市中央消防団 団長	伊 藤 秀 徳 (75)	瑞 単	福 岡 県	元 久留米市消防団 分団長	佐々木 徳 登 (72)
瑞 双	福 岡 県	元 築上町消防団 団長	木 戸 喜 代 治 (73)	瑞 単	福 岡 県	元 行橋市消防団 分団長	末 永 修 崇 (79)
瑞 単	福 岡 県	元 中間市消防団 分団長	上 田 草 次 (68)	瑞 単	福 岡 県	元 糸田町消防団 団長	竹 田 恭 二 (70)
瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 団長	上 原 ひろ 弘 (66)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市門司消防団 副団長	土 谷 清 雄 (70)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉南消防団 分団長	海老澤 正 治 (80)	瑞 単	福 岡 県	元 大野城市消防団 団長	藤 重 俊 (70)
瑞 単	福 岡 県	元 柳川市消防団 団長	大 津 究 (64)	瑞 単	福 岡 県	元 赤村消防団 団長	中 村 三 吉 (73)
瑞 単	福 岡 県	元 玄海町消防団 団長	大 森 さとし 敏 (64)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市水上消防団 副団長	松 田 好 喜 (71)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉北消防団 団長	神 谷 義 幸 (70)	瑞 双	佐 賀 県	元 佐賀市三瀬村消防団 団長	芹 田 康 生 (70)
瑞 単	福 岡 県	元 豊前市消防団 副団長	倉 松 一 三 (75)	瑞 双	佐 賀 県	元 嬉野市消防団 団長	松 尾 茂 茂 (67)
瑞 単	福 岡 県	元 金田町消防団 副団長	桑 野 軍 治 (73)	瑞 単	佐 賀 県	元 唐津市北波多消防団 団長	岡 本 一 幸 (64)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉北消防団 分団長	神 谷 忠 男 (75)	瑞 単	佐 賀 県	元 唐津市唐津消防団 分団長	小 出 博 一 (68)
瑞 単	福 岡 県	元 柳川市消防団 副団長	坂 田 潔 (65)	瑞 単	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 副団長	坂 井 岩 夫 (71)

瑞 単	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 分団長	園 田 義 則 (72)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	小 玉 和 敏 (71)
瑞 単	佐 賀 県	元 小城市消防団 団長	中 尾 隆 尚 (64)	瑞 単	長 崎 県	元 時津町消防団 団長	田 平 義 晴 (73)
瑞 単	佐 賀 県	元 伊万里市消防団 分団長	樋 口 泰 輔 (68)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	中 田 武 人 (71)
瑞 双	長 崎 県	元 県央地域広域市町村 圏組合 消防正監	是 成 正 克 (70)	瑞 単	長 崎 県	元 奈留町消防団 副分団長	野 茂 勇 雄 (78)
瑞 双	長 崎 県	元 五島市消防団 団長	谷 川 昭 一 (75)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	橋 里 義 弘 (80)
瑞 双	長 崎 県	元 諫早市消防団 団長	野 田 正 次 郎 (73)	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 副団長	松 永 正 員 (70)
瑞 双	長 崎 県	元 西海市消防団 副団長	平 井 勝 利 (70)	瑞 単	長 崎 県	元 諫早市消防団 副団長	峰 弘 毅 (77)
瑞 単	長 崎 県	元 波佐見町消防団 団長	石 本 松 行 (75)	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	森 田 義 人 (75)
瑞 単	長 崎 県	元 大村市消防団 分団長	一 瀬 みさ 汀 (77)	瑞 単	長 崎 県	元 上五島町消防団 分団長	吉 川 久 雄 (85)
瑞 単	長 崎 県	元 対馬市消防団 副団長	糸 瀬 きょう 久 三 郎 (71)	瑞 小	熊 本 県	元 有明広域行政事務 組合 消防正監	朝 岡 宣 昭 (70)
瑞 単	長 崎 県	元 生月町消防団 副団長	門 川 峯 高 (76)	瑞 単	熊 本 県	元 南小国町消防団 団長	麻 生 秀 孝 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 鷹島町消防団 分団長	金井田 久 喜 (79)	瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	石 崎 清 三 (70)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	岩 石 薫 典 (73)	瑞 単	大 分 県	元 九重町消防団 団長	軸 丸 忠 義 (66)
瑞 単	熊 本 県	元 八代市消防団 団長	内 山 憲 治 (64)	瑞 単	大 分 県	元 豊後高田市消防団 副団長	土 谷 重 信 (64)
瑞 単	熊 本 県	元 八代市消防団 団長	園 田 芳 治 (64)	瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	安 波 博 己 (80)
瑞 単	熊 本 県	元 五和町消防団 団長	中 野 了 (64)	瑞 単	大 分 県	元 竹田市消防団 団長	吉 野 幸 秀 (64)
瑞 単	熊 本 県	元 須恵村消防団 団長	仁田原 克 巳 (64)	瑞 単	宮 崎 県	元 日南市消防団 分団長	玉 田 憲 正 (65)
瑞 単	熊 本 県	元 矢部町消防団 団長	山 下 正 信 (64)	瑞 単	宮 崎 県	元 南郷町消防団 団長	沼 村 國 勝 (70)
瑞 双	大 分 県	元 山国町消防団 団長	高 倉 睦 生 (69)	瑞 単	宮 崎 県	元 諸塚村消防団 団長	松 村 晃 三 (68)
瑞 単	大 分 県	元 杵築市杵築消防団 副団長	一 宮 次 男 (68)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 志布志市消防団 団長	入 口 順 市 (74)
瑞 単	大 分 県	元 安心院町消防団 団長	岩 男 義 晴 (68)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 鹿屋市輝北消防団 団長	岩 元 久 雄 (71)
瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 副団長	大 塚 清 治 (76)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 溝辺町消防団 団長	重 森 實 衛 (73)
瑞 単	大 分 県	元 珍珠町消防団 副団長	久 保 静 洋 (65)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 さつま町消防団 団長	萩 木 場 光 三 (75)
瑞 単	大 分 県	元 前津江村消防団 団長	佐 藤 一 利 (71)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 指宿市消防団 団長	東 川 勝 一 (70)

瑞 双	鹿 児 島 県	元 鹿屋市消防団 団長	鳥 越 勝 雄 (72)	旭 双	鳥 取 県	元 旭鳥取県消防設備 保守協会 会長	山 崎 堆 稚 (77)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 金峰町消防団 副団長	有 馬 園 範 (77)	瑞 双	東 京 都	元 消防庁消防大学校 調査研究部長	瀧 島 太 吉 (74)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 南九州市消防団 団長	蘭 田 純 生 (71)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 副団長	田 口 真 基 (70)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 吹上町消防団 副分団長	田 中 武 義 (80)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 加治木町消防団 団長	鶴 幸 男 (74)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 肝付町消防団 副団長	中 原 求 (74)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 錦江町消防団 副団長	永 吉 辰 夫 (70)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 副団長	西 英 治 (68)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	福 元 勝 男 (72)				
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	米 倉 隆 義 (76)				
瑞 小	沖 縄 県	元 那覇市 消防正監	久 田 友 憲 (70)				



平成24年春の褒章受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
藍 綬	北 海 道	現 南十勝消防事務組合 広尾町消防団 分団長	井 齋 一 利 (65)	藍 綬	福 島 県	現 南会津町消防団 副団長	星 けい 一 (58)
藍 綬	北 海 道	現 網走地区消防組合 網走消防団 副団長	更 永 隆 幸 (62)	藍 綬	茨 城 県	現 坂東市消防団 団長	木 村 春 男 (65)
藍 綬	北 海 道	現 網走地区消防組合 網走消防団 分団長	本 間 哲 二 (62)	藍 綬	茨 城 県	現 茨城町消防団 団長	長 洲 良 男 (62)
藍 綬	青 森 県	現 大間町消防団 副団長	小 林 和 美 (65)	藍 綬	栃 木 県	現 小山市消防団 副団長	五十畑 哲 義 (63)
藍 綬	青 森 県	現 三戸町消防団 副団長	中 澤 鶴 正 (57)	藍 綬	栃 木 県	現 下野市消防団 副団長	保 坂 和 幸 (60)
藍 綬	青 森 県	現 むつ市消防団 副団長	中 濱 輝 男 (60)	藍 綬	栃 木 県	現 栃木市消防団 副団長	横 地 健 (63)
藍 綬	青 森 県	現 階上町消防団 副団長	名久井 敬 (61)	藍 綬	群 馬 県	現 前橋市消防団 副団長	栗 山 光 男 (60)
紅 綬	岩 手 県	人命救助者	鈴 木 修 (55)	藍 綬	群 馬 県	現 太田市消防団 副団長	河 野 光 則 (64)
紅 綬	秋 田 県	人命救助者	鈴 木 敬 (42)	藍 綬	群 馬 県	元 高崎市消防団 副団長	宮 嶋 謙 次 (65)
紅 綬	山 形 県	人命救助者	吉 田 雄 一 (51)	藍 綬	千 葉 県	現 船橋市消防団 副団長	天 野 晃 (60)
藍 綬	福 島 県	現 会津若松市消防団 副団長	石 本 正 洋 (62)	藍 綬	千 葉 県	現 八街市消防団 団長	斉 藤 弘 一 (52)
藍 綬	福 島 県	現 白河市消防団 副団長	藤 田 小 一 (61)	藍 綬	千 葉 県	現 松戸市消防団 副団長	平 野 勝 一 (64)
藍 綬	千 葉 県	元 市川市消防団 分団長	由 井 秀 一 (64)	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市臨港消防団 分団長	仲 子 先一郎 (71)
藍 綬	東 京 都	現 矢口消防団 副団長	金 岡 辰 興 (69)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 分団長	山 岸 稔 (68)
藍 綬	東 京 都	現 池袋消防団 副団長	田 島 明 夫 (68)	紅 綬	新 潟 県	人命救助者	檜 田 弘 (77)
藍 綬	東 京 都	現 蒲田消防団 副団長	鳥 海 明 (68)	藍 綬	石 川 県	現 七尾鹿島広域圏事 務組合第2消防団 副団長	右 近 博 (64)
藍 綬	東 京 都	現 八王子市消防団 副団長	堅 口 聖 司 (63)	藍 綬	石 川 県	現 小松市消防団 副団長	内 野 賢 次 (62)
藍 綬	東 京 都	現 芝消防団 副団長	波田野 英 治 (64)	藍 綬	石 川 県	現 輪島市消防団 分団長	小 川 滋 (63)
藍 綬	東 京 都	現 足立消防団 副団長	古 庄 定 夫 (63)	藍 綬	石 川 県	現 七尾鹿島広域圏事 務組合第1消防団 副団長	道 口 豊 (61)
藍 綬	東 京 都	現 金町消防団 分団長	松 丸 幹 雄 (63)	藍 綬	山 梨 県	現 甲府市消防団 分団長	若 月 萬 (64)
藍 綬	東 京 都	現 荒川消防団 副団長	岡 角 喜 孝 (65)	藍 綬	岐 阜 県	現 飛騨市消防団 団長	蒲 義 博 (62)
藍 綬	神 奈 川 県	元 横浜市瀬谷消防団 副団長	北 井 保 (61)	藍 綬	岐 阜 県	現 掛斐川町消防団 副団長	小 寺 正 則 (62)
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市南消防団 団長	河 野 正 敏 (64)	藍 綬	岐 阜 県	現 高山市消防団 副団長	野 畑 国 久 (63)
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市旭消防団 副団長	関 水 金 作 (65)	藍 綬	岐 阜 県	現 下呂市消防団 団長	福 澤 辰 之 (60)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市極楽消防団 団長	加 藤 秀 明 (68)	藍 綬	兵 庫 県	現 神戸市垂水消防団 団長	佐 藤 博 司 (63)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市砂田橋消防団 団長	河 瀬 利 夫 (67)	藍 綬	兵 庫 県	現 姫路市姫路東消防団 団長	前 田 昭 廣 (65)
藍 綬	愛 知 県	元 豊橋市消防団 分団長	立 岩 道 夫 (50)	藍 綬	奈 良 県	現 山辺広域行政事務組合三宅消防団 団長	勝 井 信 久 (63)
藍 綬	三 重 県	現 四日市市消防団 分団長	田 中 正 美 (63)	藍 綬	奈 良 県	元 上牧町消防団 分団長	竹 田 安 茂 (61)
藍 綬	三 重 県	現 伊賀市消防団 副団長	福 原 敏 昭 (55)	藍 綬	奈 良 県	現 山辺広域行政事務組合天理消防団 分団長	谷 口 正 次 (66)
藍 綬	滋 賀 県	現 近江八幡市消防団 副団長	中 田 幸 雄 (60)	藍 綬	奈 良 県	現 広陵町消防団 副団長	林 秀 和 (61)
藍 綬	滋 賀 県	現 栗東市消防団 副団長	山 本 次 夫 (59)	藍 綬	和 歌 山 県	現 橋本市消防団 副団長	井 田 則 孝 (65)
紅 綬	大 阪 府	人命救助者	岡 橋 龍 治 (78)	藍 綬	岡 山 県	現 矢掛町消防団 副団長	川 上 久 嗣 (57)
藍 綬	大 阪 府	現 吹田市消防団 分団長	勝 山 昭 昭 (64)	藍 綬	愛 媛 県	現 今治市消防団 分団長	大 本 清 司 (64)
藍 綬	大 阪 府	現 柏原市消防団 団長	阪 本 幸 重 (64)	紅 綬	福 岡 県	人命救助者	植 村 幸 次 (72)
藍 綬	大 阪 府	現 交野市消防団 副団長	新 庄 久 郎 (61)	紅 綬	福 岡 県	人命救助者	安 田 洗 太 (25)
藍 綬	大 阪 府	現 太子町消防団 副団長	三 浦 孝 朗 (54)	紅 綬	福 岡 県	人命救助者	吉 岡 豊 (42)

藍 綬	福 岡 県	現 中間市消防団 団長	石 井 宏 明 (65)	黄 綬	宮 城 県	現 爵古川ポンプ製作所 無限責任社員	氏 家 英 喜 (64)
藍 綬	福 岡 県	現 水巻町消防団 副団長	太 田 静 夫 (66)	黄 綬	東 京 都	現 ニックン(株) 会長	北 爪 敬 治 (66)
藍 綬	福 岡 県	現 飯塚市消防団 副団長	奥 野 良 一 (61)	黄 綬	大 阪 府	現 (株)モリタテクノス 社長	寺 山 泰 正 (63)
藍 綬	福 岡 県	現 筑後市消防団 副団長	角 圭 吾 (57)				
藍 綬	熊 本 県	現 美里町消防団 団長	大 原 明 和 (51)				
藍 綬	宮 崎 県	元 宮崎市消防団 分団長	能 勢 武 彌 (60)				
黄 綬	奈 良 県	現 榊里田防災商會 会長	里 田 龍 昭 (76)				
黄 綬	滋 賀 県	現 榊田辺消防システム 代表取締役	田 邊 長 司 (72)				
黄 綬	鹿 児 島 県	現 (株)ヨシキ 会長	吉 木 植 厚 (84)				
黄 綬	福 島 県	現 光栄電気通信工業(株) 代表取締役	若 松 信 一 郎 (60)				
藍 綬	岐 阜 県	現 岐阜県女性防火クラブ 運営協議会 会長	杉 山 洋 子 (61)				
藍 綬	島 根 県	現 島根県女性防火クラブ 連絡協議会 会長	山 口 洋 枝 (58)				



住民自らによる災害への備え

総務省 消防庁 防災課

日本列島は、その位置、地形や気象などの自然条件から、地震、台風、集中豪雨などによる自然災害が発生しやすい環境にあります。

平成23年は、未曾有の大災害となった東日本大震災をはじめ、台風第12号や台風第15号による大雨など、全国各地で大規模な自然災害による被害が発生しました。

また現在、東海・東南海・南海地震、首都直下型地震などの発生が懸念されており、このような事態が発生すると、地震の揺れや津波などによって甚大な被害が広範囲に発生すると予測されています。

大規模災害時には被害が大きくなればなる程、消防などの公的機関による消火、救助、救急などの活動が追いつかなくなることが想定されます。例えば大地震が発生し、消防車は全て出払い、がれきりで道路が塞がれ、生き埋めになっている人や負傷者がたくさんいたら—そこで大きな役割を果たすのが、地域住民自らによる防災活動です。

地域住民による防災組織として、自主防災組織があります。自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、地域で住民が自主的に結成する組織のことで、平常時には防災訓練の実施、防災知識の普及啓発、災害危険箇所の点検、資器材の購入・点検等を行い、災害時には初期消火、避難誘導、救出・救護、情報の収集・伝達、給食・給水、災害危険箇所の巡視などを行います。自主防災組織は、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災を契機に、その重要性が見直され、全国各地でその結成・育成が積極的に取り組まれてきました。

連携による活動の活性化

地域の安心安全を守るために活動している自主防災組織が、地域の垣根を越えて互いに連携したり、消防団、学校、企業など、地域の様々な防災活動団体と連携し、お互いの得意分野を活かして補完し合うことで、地域の防災力をより高めることができるようになります(図1)。

ここで、住民と行政が連携して防災のまちづくりを行っている福井県若狭町熊川区自主防災会の取組事例を紹介したいと思います。

熊川区自主防災会は、地域の高齢者と歴史的な

町並みを災害から守るため、町と共同で防災まちづくり計画を策定しました。計画の策定にあたり、防災マップづくりや、町歩きによる課題を発見し、解決策の検討を行う



防災マップづくりの様子
(出典：第16回防災まちづくり大賞)

など、まちづくりに防災を取り入れて、住民と行政が連携して取組を行っています。

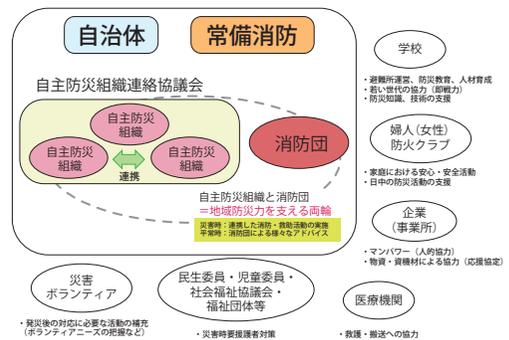
このように、普段から地域の関係団体と連携・協力関係を築き、地域における人的ネットワーク(つながり、結びつき)を広げ、地域コミュニティの強化を図ることが、いざという時に大きな力となります。

自主防災組織については、消防庁が作成した「自主防災組織の手引」に詳しく記載しています。下記のURLからご覧になれますので、ぜひ参考にしてください。

http://www.fdma.go.jp/html/life/bousai/bousai_2304.pdf

災害時には、その地域に住んでいたたり、働いていたたりして、その地域をよく知っている人々の自主的な防災活動が必要不可欠です。皆さんも、自ら災害に備え、訓練や危険箇所の点検等、自主防災組織の活動に積極的に参加しましょう。

図1 さまざまな関係機関との連携により期待できること



うちの

名物団員



秋
田
県



横手市平鹿消防団 団員

菅原 のり子

秋田県横手市平鹿消防団、本部付女性消防団員13名は秋田おばこの美人揃い。中でも菅原のり子さんは、秋田民謡と共に継承されている民舞を趣味としており、昨年10月国技館で行われた民謡民舞全国大会に秋田県代表として出場しました。

秋田は民謡の宝庫ですが、その中でも広く親しまれている「生保内節」を踊り、みごと民舞黄旗戦で3位に入賞しました。

横手市には、江戸時代から地域に伝わる絞りの技法『正藍浅舞絞り』が、女性達の手により継承されています。

彼女はその“藍”に魅せられ、女性経営者として第一線で活躍しながらも、伝統技法の保存と継承に意欲を燃やしているところです。

さて、彼女は第20回全国女性消防操法大会に1番員として出場。きゃしゃな体型、柔らかな物腰からは想像もつかないほど凛として、きびきびした操法が見事でした。

何ごとにも積極的に取り組む彼女は、「明るく・楽しく・美しく」女性消防団員のお手本として一歩前を歩いています。



静
岡
県



写真：MIYA STABAND 右上 渡部氏

富士宮市消防団 第3方面隊 第12分団 副分団長

渡部 実智留

2011年3月11日、未曾有の災害が日本を襲いました。静岡県富士宮市から、被災された方々に何か少しでも力になりたいという気持ちで音楽仲間や、消防団員の仲間も加えバンドを立ちあげました。

「MIYA STABAND」です。富士宮市から元気を届けよう、富士宮市からスタートするという気持ちを込めて名付けました。そして、復興支援ライブを開催し、入場者の方々から支援金を呼びかけました。第1回目、第2回目のライブ市民の気持ちは、全額送らせてもらいました。

次に第3回目のライブが2012年8月12日に決定しており、多数の来場を期待しています。我々「MIYA STABAND」は、メンバーの他にスタッフとして参加して頂いている消防団員も多くいます。

私を含め4人の消防団員と一緒に活動しております。「MIYA STABAND」は、一般市民の方、消防団の仲間と共に一つのチームとして被災地に想いが届くように活動しています。復興はこれからです。被災地の皆さん、日本全国の皆さん、前を向いて歩きましょう。

合言葉「絆」

「がんばろう日本!!」



須坂市消防団 音楽隊 音楽部長

徳武 洋子

信州「蔵のまち」須坂市からは、徳武さんを紹介します。

普段は障がい者福祉の仕事に従事しており、2人の子どものお母さんでもあります。

音楽隊では部長という役職に就き、女性隊員をまとめるお姉さんの存在です。

楽器はトロンボーンを担当しています。

多忙なスケジュールの合間を縫って防火管理者、応急手当普及員の資格を取得し、一般団員に親切丁寧な指導もしています。

昨年より独自に消防ラッパにもチャレンジし、他の女性隊員に声をかけて「ラッパエンジェルズ」（自称）を結成。今年は須坂市消防団初の軽可搬ポンプ操法の指揮者に就任するなど、バイタリティーあふれる徳武部長です。



伊万里市消防団 ラッパ隊長

市川 忠伸

ラッパ吹奏歴22年、自宅の「^{まなびや}学舎 ^{ちゅうざん}忠山」

で白磁を生み出す30年、後世に残す、伝えるという点は焼き物も、ラッパ指導も一緒と『指揮棒』を持つ手に力が入る。

伊万里市消防団1,010名の士気を鼓舞するラッパ隊長として、また県消防協会公認ラッパ指導員として他市町消防団から要請があれば指導に出かける。ラッパ

吹奏技術の向上と伊万里焼の伝統を伝える生業に情熱を傾けている。



那智勝浦町消防団 団員

田代 扶沙恵

那智勝浦町消防団第4分団に所属する田代扶沙恵さんは、昨年9月に発生した台風12号に伴う大水害で被災した地元の惨状を目の当たりにし、被災の2日後、自ら町ボランティアセンターに登録し、活動を続けているときに知人の消防団員から誘いを受け、10月1日付けで消防団員になり、現在活躍中です。

又、仕事においては、本年4月1日から「南紀勝浦温泉旅館組合」に勤務し、笑顔で観光客に接し、観光面からも那智勝浦町の復興のためがんばっています。

消防団の広場

静岡県

「第33回静岡県消防操法大会に出場して」

富士市消防団 第5分団
班長

瀧浪 宏俊



富士市消防団は、7方面隊、31の分団で活動を行っています。

昨年は、東日本大震災により、多くの方が被災されました。静岡県も巨大地震に備え、私たち富士市消防団第5分団も日々、訓練に励んでいます。

平成23年9月11日に第33回静岡県消防操法大会が県消防学校を会場とし行われ、県内10支部から選出された、ポンプ車、小型ポンプ各10団により熱戦が繰り広げられました。

富士支部の大会において小型ポンプ操法の部で優勝した我が第5分団は、富士支部の代表として県大会へ出場しました。

私は、指揮者の大役をもらい、出場まで緊張と不安の中、指導員、富士市の団員の皆様に支えられながら、1年半に渡る訓練を重ねて来ました。

県大会当日の開会

式では、支部の代表となる選手は皆、気迫があり、同じ思いで訓練に励んで来た事を感じました。本番では緊張とプレッシャーの中、心を落ち着かせ、精一杯の声を出し、無我夢中で競技を行い、大きなミスも無く終了しました。

それは、今までの訓練の成果を出し切った瞬間でもありました。

選手一同から「悔いが残らずできました。」の言葉もらった時、指揮者としてチーム全員が努力した結果であり、チームとの深い絆が生まれた事を感じました。

優勝はできませんでしたが、準優勝の喜びをもらい、今までにない大きな経験をさせてもらいました。

この経験を地域、社会で活かすことができよう、これからも訓練に励んで行きたいと思います。



小型ポンプ操法大会で優勝した第5分団

平成24年度 全国統一防火標語

「消すまでは 出ない行かない 離れない」

7月の日本消防協会関係行事

7月11日（水）～7月13日（金） 第23回全国消防操法大会第1回審査員研修会
7月26日（木）～7月27日（金） 消防育英会奨学生懇談会（対象：近畿、中国、四国、九州地区）

編集後記

梅雨入りの季節がやってまいりました。関東地方は平年より1日遅れで統計開始以来2番目に早かった昨年に比べると、13日遅い梅雨入りです。

湿気が多い我が家は、除湿機がフル稼働しています。地元では建物の違いもありますが部屋が乾燥しすぎて加湿器を使っていたので、湿度の大きな変化に驚いています。

東京スカイツリーレポートです。20：00入場のチケットで夜のスカイツリーなのですが、天候が夕方から雨がパラつき空模様があやしくなってきました。予約時間になってエレベーターに乗ると“アッと”言う間に350メートルの世界へ静かで全然揺れないエレベーターで快適でした。そして、扉が開き東京の夜景が広がった瞬間周りから歓声があがりました。おかげさまで雨の心配もなく、遠方までまるで宝石箱のような光景です。450メートルの展望回廊へも行き帰ってきました。とても素敵な景色なので、皆さまにも東京へお越しの際は、是非立ち寄って未知の空間を味わっていただきたいと思います。

これからだんだんと暑さが増してきます。皆様方も体調管理に注意して夏を乗り切ってください。

(K・S)

購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十五巻第六号
平成二十四年六月五日印刷
平成二十四年六月十日発行

編集人 岩田知也
発行所 財団法人日本消防協会

東京都港区虎ノ門二丁目九番十六
電話 〇三(350)一四八一(代)

印刷所

東京都文京区湯島三丁目二十一番十二
日本印刷株式会社
電話(383)六九七二(代)

消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)400万円を600万円に増額しました。
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※ 加入にあたり、組合員となっていたために出資金が必要になります。



生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

消防互助年金

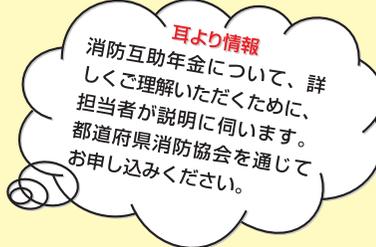
『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、(財)日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です

ホームページでも詳しく紹介しています



「互助マル君」



耳より情報

消防互助年金について、詳しくご理解いただくために、担当者が説明に伺います。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
 - 生活協同組合全日本消防人共済会
- 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5
<http://www.nissho.or.jp>

